

おおよど遺産

—2016～2020年度大淀町地域遺産保存活用事業—

2022.3

奈良県大淀町教育委員会 編

刊行にあたって

奈良県内でも有数の大河・吉野川に面し、里山の豊かさに育まれた本町は、縄文時代以来、人々の行き交う吉野地域の門戸として栄えてきました。人と自然のかかわりが生み出す地域に根ざした歴史・文化遺産は、何事にもかえがたい、ふるさとの宝といえます。

本町では2016年度より、ふるさとに眠る地域遺産を見直し、その価値と魅力を次代へつなぐことを目指して「地域遺産保存活用事業」にとりくんでいます。

その一環として、町内各地域に残されたさまざまな地域遺産のなかから、とりわけ魅力あるストーリー（物語）をもつものを「おおよど遺産」として選定し、地域住民と行政が協力して、その保存活用をすすめる新たな仕組みづくりを目指してきました。この「おおよど遺産」については、関係各位のご尽力により、本町が町制施行100周年（2021年2月11日）を迎えた2021年3月、目標の「100件選定」を達成することができました。

本書では、この〈おおよど遺産〉の取り組みをふまえて、地域に残された歴史・文化遺産の魅力を再発見し、次代に継承していくことの意味を考えたいと思います。

終息する兆しのみえないコロナ禍のもと、過疎化・少子高齢化といった社会のほころびが身近に感じられるようになりました。先行きを見通すことも難しい昨今の情勢ですが、本書が各方面で大いに活用され、ふるさとの風土や原風景に思いを寄せる人々が増え、足元にある宝物の発見を促し、地域に根ざした歴史・文化遺産の保存・継承につながり、吉野地域が歩むべき未来への新たなビジョンを生み出すきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、おおよど遺産の取り組みにご尽力を賜りました町内各区長・自治会長様および大淀町地域遺産会議の皆様、ご指導・ご協力を賜りました関係団体の皆様、ご支援いただきました地域の皆様に、心より御礼申し上げます。

令和4年（2022）3月

大淀町教育委員会

教育長 廣見 敦志

例 言

1 この本は「2016～2020年度大淀町地域遺産保存活用事業（おおよど遺産）」の報告書です。

2 上記事業の対象地は、奈良県吉野郡大淀町内の大字各区・自治会（計51区）です。

3 この本で報告する事業は、大淀町が次のとおり実施したものです。

2016年度（第1期）	おおよど遺産選定	2016年10月～2017年3月	（計20件）
2017年度（第2期）	おおよど遺産選定	2017年10月～2018年3月	（計19件）
2018年度（第3期）	おおよど遺産選定	2018年10月～2019年3月	（計21件）
2019年度（第4期）	おおよど遺産選定	2019年10月～2020年3月	（計20件）
2020年度（第5期）	おおよど遺産選定	2020年10月～2021年3月	（計20件）

4 事業の実施体制は次のとおりです。

実施主体

○大淀町地域遺産会議（委員長・小西正久、副委員長・森本悦子）

○大淀町地域遺産会議事務局：大淀町教育委員会事務局文化振興課（職名は当時）

2016年度（生涯学習課長・松本昌也、同課課長補佐・種田知子）

2017年度（文化振興課長・種田知子、同課課長補佐・小林真由巳）

2018年度（文化振興課長・坂口佳寿大、同課課長補佐・小林真由巳）

2019年度（文化振興課長・坂口佳寿大、同課課長補佐・小林真由巳）

2020年度（文化振興課長・坂口佳寿大、同課課長補佐・宮坂和裕、同課課長補佐・嶋田健樹）

2021年度（文化振興課長・柳井正行、同課課長補佐・嶋田健樹）

実施担当 奈良県大淀町教育委員会事務局文化振興課 主任技師・松田度

実施指導／協力 大淀町文化財保護審議会／大淀町大字各区・自治会

5 上記選定事業とあわせて2017年度より実施している「おおよど遺産保存活用補助金支援事業」は2022年度まで継続中です。これについては別に事業報告書を予定しています。

6 この本の編集・執筆は、令和3年（2021）11月から同4年（2022）3月にかけて、本町教育委員会事務局文化振興課（担当・松田）がおこないました。

7 この本には、大淀町が刊行した『おおよど遺産パンフレット』（2016年度～2020年度）および『わたしたちのレガシー～地域遺産を次代へつなぐ～』（大淀町地域遺産シンポジウム2021資料集）の内容を一部修正のうえ再掲しています。また、この本や上記の刊行物については、大淀町ホームページでPDF版を無償でダウンロードできます。多くの方々の閲覧と活用を願っています。

8 上記以外に、調査と資料整理、本書の作成に際し、多くの方々よりご指導・ご協力を得ました。記して感謝申し上げます。

目 次

I	大淀町について	1
II	事業報告	
	i 実施にいたる経緯	
	a 課題は何か	3
	b 地域遺産制度の創設	4
	c おおよど遺産のしくみ	5
	d 各地の地域遺産制度	7
	ii 事業の概要	
	a 年度別	7
	b 種類別	9
	c 地区別	9
III	まとめ	20
附編	おおよど遺産総覧（選定順）	23
	おおよど遺産100リスト（選定順）	124
	大淀町地域遺産保存活用制度実施要綱	128
	大淀町地域遺産会議設置要綱	129
	おおよど遺産の選定基準	131
	おおよど遺産 選定の流れ	132
奥付		133

☆附編について

○おおよど遺産総覧：大淀町『2016年度～2020年度おおよど遺産パンフレット』（2017～2021年）より一部修正し再掲。

○おおよど遺産100リスト・地域遺産保存活用制度実施要綱・地域遺産会議設置要綱・選定基準・選定の流れ：

大淀町教育委員会編『わたしたちのレガシー』大淀町地域遺産シンポジウム2021資料集（2021年）より一部修正し再掲。

I 大淀町について

大淀町は、奈良県の中央を西にむかって流れる長さ70.1kmの大河、吉野川（紀の川）の北岸にあります。その広さは、東西11km、南北4.7km、総面積は38.10km²です。町内は23の大字（おおあざ）からなり、16,717人（7,391世帯）が住んでいます（令和4年2月末時点）。町役場庁舎は大淀町大字桧垣本2090番地に所在します。

大正10年（1921）2月、吉野郡大淀村が町制をしいて大淀町になりました。昭和27年（1952）7月1日には宇智郡大阿太村大字佐名伝地区が大淀町に入り、昭和42年（1967）9月1日には五條市東阿田町の一部が大淀町に入りました。昭和59年（1984）には、吉野町との間で土地を一部交換し、今にいたります。

大淀町は、和歌山県と三重県を東西に結ぶ伊勢南街道と、大和盆地から高取・龍門山地を越えて吉野へと達する街道（芦原越え・壺坂越え・車坂越え）などが交わる交通の要所です。町内には、上記の街道を踏襲する3本の国道（169号線・309号線・370号線）と、6か所の駅舎を經由して近鉄吉野線が走っています。

町章は、昭和37年（1962）月に制定されたのが最初で、今の町章は、昭和41年（1966）5月、当時の町役場新庁舎（大字土田）完成と町制45周年記念にあわせて制定された2代目。いずれも「大」の文字を図案化したものです。

平成3年（1991）11月に制定された「町の花」はバラ科の梨花（ナシの花）、「町の木」はブナ科のアラカシ。平成30年（2018）4月には、梨の花によるまちづくりを推進するため「大淀町梨の花条例」ができました。

名産品として、町西部の大阿太高原で作られている「二十世紀梨」、町東部の中増地域で作られている「増茶・日干（にっかん）番茶」などが知られています。また、吉野地域の木材を扱う市場も多く、木のまち・大淀町の歴史を物語ります。

平成11年（1999）以降、町西部の近鉄福神駅周辺（福神地区）では、住宅団地（花吉野ガーデンヒルズ）、南奈良総合医療センターと専門学校および宿舎などの病院関連施設、植物工場（近鉄ファーム花吉野）、メガソーラー（大規模太陽光発電施設）といった施設の整備が進んでおり、吉野郡内の次世代を担うモデル地区として注目を集めています。

特徴ある文化的とりくみが「能楽プログラム」です。平成13年（2001）からは桧垣本地区にゆかりのある、能楽（猿楽能）囃子方の源流のひとつ、「桧垣本猿楽」の掘り起こしが始まり、以後、能楽の公演や「ちびっ子桧垣本座」の活動などを継続しています。また、町立図書館には、能楽関連の図書や、郷土を代表する児童文学作家・花岡大学（1909-1998）の作品を集めた郷土資料の閲覧コーナーもあります。



▲空から見た大淀町



▲大淀町全図

II 事業報告

日本各地で過疎化が進み、地域が疲弊しています。紀伊半島のど真ん中、大淀町を含む自然豊かな吉野の各地でも〈むらおさめ〉をしないといけない集落が増えてきました。

なにしろ、かつて吉野の花形産業だった林業も停滞するなか、子どもや若年層の増加も見込めない過疎地で、〈地域活性化〉なんて…とってしまいます。〈持続可能な地域社会〉をつくりたい。この思いをコンパスの軸にして、日々の仕事を考えています。

〈文化遺産でつなぐ地域と未来〉。そのキーワードが〈地域遺産〉です。地域に残る遺産ということですが、あまり耳慣れない言葉です。文化財行政のなかでは、国・県・市町村の指定文化財に含まれない、いわゆる未指定文化財、というイメージで理解されています。

地域という言葉には、とても豊かなイメージが含まれており、すべての人の営みは、一定の地域のなかで繰り返されます。その地域と人との多様なかかわり方が、文化を生み出します。そのようにして生み出された、いちばん身近な、その地域を語るうえでなくてはならないモノ、コト、考え方。それが地域遺産といえます。

ここでは、大淀町という地域をつうじて、地域遺産のもつ底力と、それを次代へつなぐ視点を深めたいと思います。

i 実施にいたる経緯

a 課題は何か

大淀町は、近隣の吉野町や下市町といった国・県指定文化財の多い町に比べて指定文化財が少なく、大淀町歌で謳われた「文化の薫り高らかに」のイメージとは大きな落差がありました。

そのような中、平成17年(2005)7月、町教育委員会に文化財をとりあつかう臨時職員が配置され、町の文化財を調査し、活かすための下地作りが始まりました。

平成20年(2008)4月には、町教育委員会に正式に文化財の専門職員が配置され、埋蔵文化財の発掘調査、指定文化財を中心とした保存活用事業、歴史・文化遺産の掘り起こしが進みます。平成24年(2012)9月には、本町東部の増口地区にある町立杉本記念文化センター内に、念願の「おおよど歴史展示室」が開設されました。

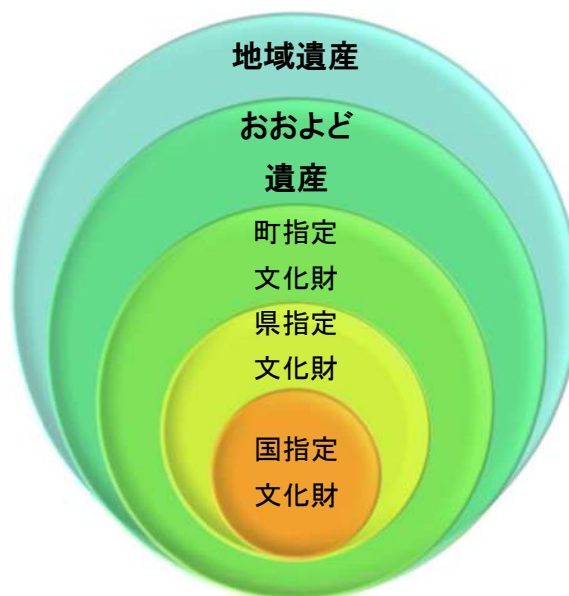
その後も約10年間、史跡を訪ねるハイキング・ウォーキング、公共施設等での企画展・講演会・シンポジウムなどのイベント、インターネットをつかった情報発信などを通じ、歴史・文化を活かしたまちづくりが進められてきました。

とはいえ、今でも町には文化財の専門職員が一人しかいません。教育委員会や専門職以外の役場職員にも、町内の歴史・文化をもっとよく知ってもらい、教育・福祉や観光等のまちづくりに活かしていく新たなとりくみが求められています。

また、地域に残る文化財の保存・管理については、文化財ボランティアや民間団体による自主活動の支援をうけ、地域ごとでその保存・管理を進めていく持続可能な仕組みも必要となっています。

b 地域遺産制度の創設

平成 21 年（2009）3 月、町教育委員会が刊行したパンフレット『大淀町の文化財（地図でみる大淀町の歴史と文化 1）』には、指定文化財以外に「町内各地域の歴史にとって欠く事のできない文化財は、【地域文化財】としての保存と活用を目指しながら、地域づくりとの連携を進めてゆきます」と記されています。この考え方は 2013 年 3 月に町教育委員会が刊行した『おおよどの地域文化財を学ぶ—平成 19～23 年度—』にも引き継がれています。また、この考え方をもとに、2011 年 6 月におこなわれた平成 23 年度第 1 回大淀町文化財保護審議会でも、「(仮称) 大淀町地域文化財制度の導入にむけて」という議論が始まりました。その後、計 8 回の審議を経て、2015 年 7 月の平成 27 年度第 1 回大淀町文化財保護審議会では、「地域文化財⇒地域遺産」とし、そこから「おおよど遺産」という新たな文化遺産を選定する制度のイメージがかたまっていました。このように大淀町では、2009 年頃から地域文化財や地域遺産に関する事業の構想が始まり、それを制度としてスタートさせるため、町の文化財関係の有



▲大淀町の目指す
地域遺産保存活用制度〈模式図〉

識者による議論がくり返されていました。もちろんその背景には、各地域（区・自治会）の抱える課題や取り組みがありました。転換期となった 2015 年には、同時期に文化庁が進めていた「日本遺産」という制度との共通点や方向性の違いが話し合われました。大淀町では、文化庁の考え方を参考にしながら、行政的なトップダウン方式ではなく、地域住民の視点から地域の遺産を見直すボトムアップな取り組みとして地域遺産制度を位置づける、という方針が決まったのです。

町文化財保護審議会は、この 5 年間の計 10 回にわたる議論をもとに、2016 年 3 月、「地域に根ざした町内文化財等（大淀町地域遺産）の保存活用にかかる提言書」をまとめ、町に建議しました。

コンセプトは「地域の遺産は地域で守る」。あたりまえのことのようですが、これまでの日本の文化財保護は「トップダウン」「行政主導型」「他人任せ」でした。

国宝クラスの仏像、注目されている古墳や神社。これらがすばらしい価値をもっていることに、異論はないでしょう。でも、それは誰かに与えられた、えらい先生に教えていただいた価値、なんですね。それよりも、自分たちにとって価値があるものはなんだろう。それは「身近な地域にあるモノ・コトだよ。そういった、自分たちで、みんなでいっしょに考えて、見つけた価値を大事にしよう」という地域目線の価値なのではないでしょうか。

大淀町の地域遺産制度が目指すビジョンは、①地域遺産の価値を再発見するプロセスをへて、②より多くの人々にその価値観を〈共感〉してもらうこと。いわば、自分たちとのかかわりの深さが〈価値〉とつながるわけです。

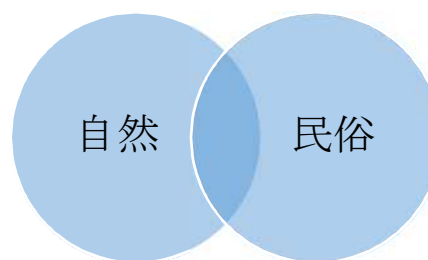
このような、行政や専門家だけに頼らない市民・住民、いわゆる〈在野〉の人々の活動を、海外では〈new public (新しい公共)〉あるいは、単に〈public (パブリック)〉と称しています。これは次世代の地域経営にとって、最重要のキーワードと考えられています。地域遺産は、いわば「パブリック的な遺産」であり、そこに反映されているものは、その地域の人々の考え方、感じ方といえます。

c おおよど遺産のしくみ

「おおよど遺産」のプロジェクトは、大淀町内各地域に残されたさまざまな遺産（地域遺産）のなかから、とりわけ魅力あるストーリー（物語）をもつものを、有形・無形を問わず「おおよど遺産」として選定し、地域住民と行政が協力してその保存活用をすすめる新たな「仕組みづくりを目指す」取り組みです。したがって、その仕組みができれば、おおよど遺産を核とした、新たな文化財の保存活用モデルとしてこれを継続していくことになります。

大淀町ではその仕組みづくりに、5年間という期限を設けました。年度でいうと2016年度から2020年度です。

つぎに選定の分類ですが、①もの、②わざ、③民俗、④名所、⑤自然、⑥近現代、⑦景観、⑧ひと、それらが一体となっている⑨複合（①～⑧の組み合わせ）があります。推薦は、町内の各区長・自治会長と任意団体から。選定するのは大淀町という行政ですが、実際に選定の基準に基づいて審査をするのは行政や専門家ではない、地域住民のなかから選ばれた「大淀町地域遺産会議」の運営委員です。



▲複合遺産〈模式図〉

表1 各地の地域遺産制度(2021年時点)

No.	都道府県	自治体	制度名	策定年	担当部署	選定・認定件数 (令和2年度末)	条例・ 要綱等
1	北海道		北海道遺産	1999	NPO法人北海道遺産協議会	67	定款
2	佐賀県		佐賀県遺産	2005	佐賀県	57	条例 (景観)
3	岩手県	遠野市	遠野遺産 (認定制度)	2007	遠野市	161	条例
4	兵庫県	加東市	加東遺産	2007	加東市教育委員会	10	
5	北海道	札幌市清田区	清田ふるさと遺産	2007	清田区10周年実行委員会	12	
6	富山県		とやま未来遺産	2007・ 2008	富山県	19	
7	熊本県	菊池市	菊池遺産 (認定制度)	2009	菊池市	146	条例
8	京都府	京都市	京都をつなぐ 無形文化遺産	2010	京都市	6	要綱
9	岐阜県	大垣市	大垣市景観遺産	2010	大垣市	60	
10	徳島県	徳島市	とくしま市民遺産	2010	徳島市	45	
11	福岡県	太宰府市	大宰府市民遺産	2011	太宰府景観・市民遺産会議	16	条例
12	静岡県	下田市	下田まち遺産 (認定制度)	2011	下田市	154	条例
13	新潟県	新潟市	新潟市民文化遺産	2013	新潟市	218	要綱
14	茨城県	龍(りゅう)ヶ崎市	龍ヶ崎市民遺産	2015	龍ヶ崎市教育委員会	14	条例
15	静岡県	島田市	しまだ市民遺産	2015	島田市	21	要綱
16	静岡県	浜松市	浜松地域遺産 (浜松市認定文化財)	2016	浜松市地域遺産センター	455	要綱
17	京都府	京都市	まち・ひと・ところが 織り成す京都遺産	2016	京都市	10	要綱
18	奈良県	大淀町	おおよど遺産	2016	大淀町地域産会議	100	要綱
19	神奈川県	川崎市	川崎市地域文化財 (顕彰制度)	2017	川崎市教育委員会	167	要綱
20	長野県	松本市	まつもと文化遺産 (認定制度)	2018	松本市教育委員会 まつもと文化遺産保存活用協議会		要綱
21	茨城県	水戸市	水戸市地域文化財 (認定制度)	2018	水戸市教育委員会	3	要綱
22	栃木県	宇都宮市	みや遺産 (宇都宮市民遺産)	2020	宇都宮市教育委員会	9	要綱
23	埼玉県	白(しろ)岡市	白岡遺産	2020	白岡市教育委員会		要綱
24	兵庫県	神戸市	神戸歴史遺産	2020	神戸市	5	要綱
25	徳島県	美波(みなみ)町	美波遺産 (伝統建築対象の認定制度)	2021	美波町産業振興課	12	

委員尾の構成メンバーは区長、文化財ボランティア、元教員、語り部ガイド、僧侶、伝統文化の担い手など、いろいろ。

選定された物件には、町役場から保存活用に対する小額の支援（補助金）が出る、という仕組みです。コーディネーター（行政の専門職員）の絶妙な差配のもとで、専門家と地域の人々がいっしょに、地域遺産の魅力を再発見しながら学びつつ、持続可能な（自分たちの裁量でできる）範囲で、さらにいろんな人々を巻き込んでいこうというわけです。

町は、平成 28 年（2016）6 月から「大淀町地域遺産保存活用制度」をスタートさせました。そして、このユニークな仕組みづくりの柱になる事業として、「おおよど遺産（大淀町選定地域遺産）」のプロジェクトが同年 10 月から始まったのでした。

d 各地の地域遺産制度

「地域遺産」というキーワードでネット検索をすると、表 1 のように、各地で地域遺産にまつわる様々なとりくみが増えてきていることがわかります。

大淀町が地域遺産制度をつくるにあたって参考にしたのは、自治体の条例で定められている岩手県遠野市の「遠野遺産（認定制度・2007 年策定）」、福岡県太宰府市の「大宰府市民遺産（2011 年策定）」などです。しかし、条例を変えるとなるとたいへんです。その後の大半の地域遺産制度は、〈要綱〉をつくって実施するケー

スが多く、大淀町もそれになりました。管見にあがったなかでは、浜松市の「浜松地域遺産（認定制度・2016 年）」などは大淀町と同じ頃に制度ができていますが、認定された文化財は 455 件（令和 2 年度末）と膨大な数です。市域が広いということもありますが、地域のもつ底力を感じます。大宰府市では、制度の担い手として市民（住民）遺産会議という組織が中心となっています。住民が主体的に選定・認定にかかわる制度はまだ少ないようですが、大淀町は町地域遺産会議という住民主体の組織が担い手となっている点でユニークだといえます。

ii 事業の概要

ここでは、事業の概要を年度別、種類別、地域別に述べていきます（表 2・3）。

a 年度別

【2016 年度】

初年度となる 2016 年度は、地域遺産制度の立ち上げ（6 月）から選定物件の募集（10 月）、選定事業（11 月～3 月）、パンフレットの作成（1～3 月）と、はじめての取り組みに追われました。この年は、「地方創生」の一環で大淀町全体でもタウンプロモーション事業にとりくんでおり、11 月には大淀町地域遺産シンポジウム「吉野宮の原像を探る」が開催され、年度末には DVD『大淀町の歴史・文化遺産』が完成し、町公式動画チャンネルでも「タ

ウンプロモーション動画」が公開されるなど、町内の歴史・文化に関する事業が大きく前進しました。この年には20件(No. 1～20)のおおよど遺産が選定されました。

【2017年度】

2年目の2017年度は、選定されたおおよど遺産の保存活用にかかる町補助金支援事業も始まりました(支援した事業は6件)。また、昨年度新たに確認された「吉野熊野国立公園」の父・岸田日出男(1890～1959)にかかわる新資料もおおよど遺産に選定されました。ただし、選定を交渉していた候補物件を一つ取り下げたため、この年に選定されたおおよど遺産は19件(No. 21～39)でした。

【2018年度】

3年目となった2018年度はちょうど折り返しの年。各区からの候補物件がなかなか集らない状況で、任意団体(町地域遺産会議)からの推薦枠を増したり、これまで「文化財」という認識で議論されることのなかった物件(花岡大学の童話作品)を見直してみたり、選定の方法に智慧をしばりました。また、同年6月には「大淀町町制施行百周年記念事業」がスタートしたことで、大正11年(1922)の大淀町発足前後の「近現代遺産」についても認識が深まりました。この年に選定されたおおよど遺産は21件(No. 40～60)、補助金支援事業は2件でした。

表2 おおよど遺産の種類別選定件数

種別	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	計
もの遺産	5	6	4	5	2	22
わざ遺産	0	0	1	1	1	3
民俗遺産	6	4	1	2	2	15
名所遺産	5	4	8	4	6	27
自然遺産	1	0	1	2	2	6
近現代遺産	2	3	2	5	4	16
景観遺産	1	1	2	1	3	8
ひと遺産	0	0	0	0	0	0
複合遺産※	0	1	2	0	0	3
計	20	19	21	20	20	100

※複数地区にまたがる選定を「複合遺産」として示している。

【2019年度】

4年目となった2019年度も前年同様、町地域遺産会議の推薦枠が多くなるなかで、過去に申請のあった候補物件もあらためて見直し、地域ごとに偏りのない選定を目指す工夫をしました。この年に選定されたおおよど遺産は20件（No.61～80）、補助金支援事業は1件でした。

【2020年度】

最終年の2020年度は、地域を限らず広域で選定する物件が増えました。また、これまで選定についての話し合いがなかなか進まなかった新興住宅地（ニュータウン）でもおおよど遺産が選定され（土田・南大和地区）、まちのシンボル（町章）も地区を定めないおおよど遺産として選定されました。この年に選定されたおおよど遺産は20件（No.81～100）、補助金支援事業は1件でした。

このように、毎年おおよそ20件のおおよど遺産をコンスタントに選定できたおかげで、2016年度～2020年度の5年間でその数は目標の100件となりました。

b 種類別

つぎに、選定されたおおよど遺産を種類別にみてみましょう（表2）。

わかりやすい仏像・歴史資料、神社・寺院などの「もの遺産」「名所遺産」は、選定件数が多い一方、技術・風景などの「わざ遺産」「景観遺産」は、具体的なイメー

ジが湧きにくいのか、選定件数も少ない傾向があります。樹木や森、並木道といった「自然遺産」も、あたりまえにあると理解されやすく、遺産としての価値を見出しにくいいためか、選定数がのびませんでした。また、当初は「ひと遺産」という項目を設けていましたが、最終的には選定されませんでした。いわゆる「人間国宝」のように、存命の地域住民を〈遺産〉とする考え方は、住民どうしの「距離」が近すぎてなじまないのかもしれませんが。

c 地区別

つぎに上記の選定された遺産を町内51地区選定の件数でみてみましょう（表3）。

もっとも選定数の多かった順に、上比曾（6件）、佐名伝・新野（5件）、今木・大岩（4件）、薬水・矢走・持尾・畑屋・土田・北六田・増口・中増（3件）と続きます。上比曾は名刹・世尊寺があるため選定物件が多く、選定物件の多い地区は申請件数でも、佐名伝（9件）、持尾（11件）、新野（9件）と多い傾向にあります。いずれも江戸時代以来の伝統的集落です。

これに対し、大阿太、花吉野（福神）、下淵の一部、吉野平、北野等、申請・選定のほとんどない地区もあります。これは、1970年代以降の新興住宅地（ニュータウン）であることが主な理由とみられます。

この偏りを均等にするにはどうすればいいか。ここでは、複数の地域をテーマで

表3 おおよど遺産の年度別・地区別申請および選定件数

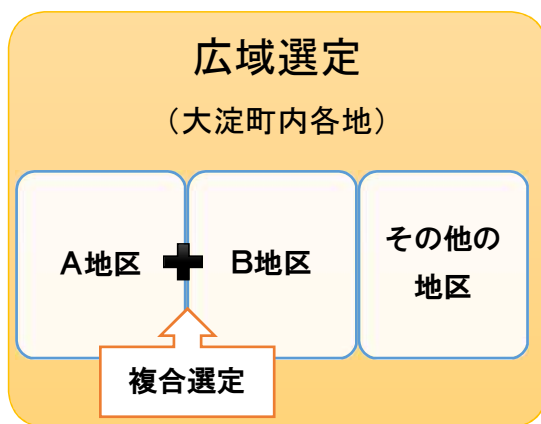
No.	地区	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		申請 合計	選定合計		
		申請	選定	申請	選定	申請	選定	申請	選定	申請	選定		地区	複合	広域
1	佐名伝	8	2	0	1	0	1	0	0	1	1	9	5	1	○
2	大阿太	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
3	花吉野(福神)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
4	薬水	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	4	3	1	○
5	今木	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	4	4	4	○
6	大岩	2	2	1	1	0	0	0	0	1	1	4	4	1	○
7	銚立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
8	岩壺	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	1	○
9	矢走	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	2	3	0	○
10	持尾	9	1	0	1	0	0	0	0	1	1	11	3	1	○
11	芦原	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2	0	○
12	畑屋	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	3	3	1	○
13	北町1丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
14	北町2丁目	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
15	北町3丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
16	学園前町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
17	つつじヶ丘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
18	高見台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
19	車坂町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
20	香梨台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
21	西町1丁目	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	1	2	○
22	西町2丁目	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	○
23	西町3丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
24	西町4丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	○
25	西町5丁目	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	○
26	西町6丁目	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	○
27	岡崎1丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
28	岡崎2丁目	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	○
29	岡崎3丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
30	新町1丁目	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	○
31	新町2丁目	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	○
32	新町3丁目	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	○
33	口桧垣本	9	1	0	0	0	0	2	0	1	1	12	2	2	○
34	上桧垣本	3	0	1	0	0	1	0	1	0	0	4	2	2	○
35	金吾町	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	○
36	吉野平	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
37	土田	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	3	3	0	○
38	南大和	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	○
39	口越	0	0	3	1	0	1	0	0	0	0	3	2	1	○
40	中越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
41	奥越	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	0	○
42	馬佐	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	4	2	1	○
43	新野	0	0	5	1	0	0	4	4	0	0	9	5	0	○
44	北野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
45	北六田	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	4	3	2	○
46	出口	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	○
47	比叢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
48	上比叢	2	2	0	0	1	1	2	2	1	1	6	6	0	○
49	増口	7	1	0	1	0	0	1	1	0	0	8	3	2	○
50	西増	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	2	1	○
51	中増	0	0	4	2	0	0	0	0	1	1	5	3	1	○
	(複合)	0	2	2	3	0	10	2	5	7	8				
計		50	20	37	19	2	21	19	20	19	20	118	72		

※複合選定の地域別についてはこの表では示せていない。No.13～32は下洲地区。

つなぐ「複合選定」や、地区を定めない「広域選定」という方法を、新興住宅地を含めた大淀町内各地に適応しています（下図）。つまり、新興住宅地でも、風景のよいところ（景観遺産）や、古道の痕跡（石標）が残っているところがあり、これらを広域で関連付けながら選定していくことで、申請・選定のなかった地区も、何らかのおおよど遺産にかかわってもらえるよとの配慮です。

残念ながら、交渉段階で地元理解が得られず選定を断念した候補物件もありました。どんなにすばらしい地域遺産でも、地元住民の理解がなければ「おおよど遺産」としての選定はできず、選定後の保存活用を図ることも困難です。ここに、制度の限界や課題もほのみえます。

次に、選定されたおおよど遺産を地区別（大字ごと）に詳しくみていきます。詳細については本報告の「おおよど遺産総覧（23～123頁）」をご参照下さい。



▲複合選定・広域選定の考え方〈模式図〉

佐名伝

佐名伝地区からは、御霊神社の秋祭（民俗遺産／2016年度）、佐名伝銅鐸（もの遺産／2016年度）、大阿太高原（景観遺産／2016年度・薬水地区とあわせて）、花岡大学の童話作品（もの遺産／2017年度）、筆捨岩（自然遺産／2018年度）、佛眼寺（名所遺産／2020年度）の計6件（地区5・複合1）が選定されています。

御霊神社の秋祭りは町内では珍しい「オカリヤたて」が続けられています（佐名伝御霊神社護持会 2017年）。弥生時代中期の瀬戸内海地域の特徴をもつ銅鐸は町内でみつかっている唯一のもの。大阿太高原は明治時代以来、県下有数の梨畑が広がる県下でも稀な景観遺産です（大淀町果樹組合 2005年）。その一画に、花岡大学の代表作「百羽のツル」の童話碑が建立されています。筆捨岩は弘法大師の伝承地であり、吉野川の奇岩を体験できる「ジオパーク」です。佛眼寺（ぶつげんじ）の本尊・薬師如来坐像は大陸風のまなざしをもつ室町時代の優品です。

薬水

薬水地区からは、大阿太高原（景観遺産／2016年度／佐名伝地区とあわせて）、薬水門（近現代遺産／2016年度）、弘法井戸（名所遺産／2016年度）、戦勝祈願の絵馬（近現代遺産／2017年度）、の計4件（地区3・複合1）が選定されています。

弘法井戸（薬水の井戸）は地名の由来と

もなった弘法大師伝承のある場所。薬水八幡神社に奉納された絵馬 5 点は、幕末から明治時代にかけての大絵馬で、地域住民の願いが込められたもの。明治時代後半期にはじまった大阿太高原の梨栽培は、明治 35 年（1902）に奥徳平がはじめた「薬水園」がその嚆矢であったと伝えま

今木

今木地区からは、牛と馬のトンド（民俗遺産／2016 年度）、車坂古道（名所遺産／2017 年度）、今木権現堂（名所遺産／2018 年度）、保久良古墳と女帝の歌碑（名所遺産／2018 年度）、大峯索道の遺産（近現代遺産／2018 年度）、吉野川分水（自然遺産／2019 年度）、甲神社の秋祭り（民俗遺産／2019 年度）、泉徳寺（名所遺産／2020 年度）の計 8 件（地区 4・複合 4）が選定されています。車坂古道・吉野川分水は下流域地区と、大峯索道の遺産は大岩地区、今木権現堂は中増地区とあわせての選定です。

車坂古道は御所と吉野をつなぐ車坂峠（標高約 250m）越えの旧街道。保久良古墳は飛鳥時代（7 世紀）の横穴式石室墳で、斉明女帝の皇孫・建皇子（たけるのみこ）の殯塚伝承があります（町教育委員会 2018 年）。真言宗の泉徳寺は、葛城と吉野・大峯を結ぶ参詣道沿いの古刹で、本尊の薬師如来（平安時代）や山門の金剛力士像

（江戸時代）に往時の隆盛が偲ばれます。大峯索道は大正～昭和初期に使われた索道で、天川村洞川から吉野口駅にかけてその索道の支柱基礎が残されています。吉野川分水は、吉野川の水を川べりにある水門（下流域首工）から大和盆地へと流すため、昭和 31 年（1956）につくられた導水トンネルです。牛と馬のトンドは、同地区の中野家が伝える、藁で作った牛と馬を天に送る大晦日の行事（町教育委員会 2011 年）。前日の宵宮と翌朝の本宮からなる今木地区の氏神・甲神社の秋祭りは、宵宮のススキ提灯が見どころです。

大岩

大岩地区からは、大岩のトンド（民俗遺産／2016 年度）、大日如来と大岩神社の神像（もの遺産／2016 年度）、大岩の薬業遺産（近現代遺産／2017 年度）、大峯索道（近現代遺産／2018 年度）、大岩古墳群（名所遺産／2020 年度）の計 4 件（地区 4・複合 1）が選定されています。

大岩古墳群は、巨石を用いた横穴式石室をもつ石神古墳（7 世紀・奈良県史跡）を含めた数基からなる町内有数の古墳群です。また、町指定文化財となっている大岩大日堂の大日如来坐像（平安時代）と大岩神社の神像（鎌倉時代）は、古代・中世にさかのぼるこの地域の古風な信仰を物語る遺産。また同地区には、江戸時代から明治～大正期にかけて大岩地区でも盛んにおこなわれていた大和売薬の資料もの

こされています。大岩のトンドは、今も変わらず小正月の1月14日の夜に行われている行事です（町教育委員会2011年）。

鉾立

鉾立地区からは、山村の原風景（景観遺産／2019年度・持尾地区とあわせて）の計1件（複合1）が選定されています。

鉾立川の源流に位置する谷奥の蓮池からは同集落が一望でき、その西方に葛城・金剛山が眺められます。

岩壺

岩壺地区からは、蓮のつぼみを抱えた大日如来（もの遺産／2016年度）、子ども相撲（民俗遺産／2016年度）、弁天さん（名所遺産／2019年度・馬佐地区とあわせて）、の計3件（地区2・複合1）が選定されています。

岩壺・大日寺の大日如来坐像（室町時代）は蓮のつぼみを抱えているのが特徴です。2017年には古くなった大日寺が新築されています。その大日堂東方の高台に建つ弁天社は、約680年前の文献に登場する「和州岩坪弁財天」の故地とされます。秋祭りにあわせて、地区の氏神・葛上（くずかみ）神社に奉納される子ども相撲は、子どもの健やかな成長を願う行事です。

矢走

矢走地区からは、天髪王（てんぱつおう）神社のトヤワタシ（民俗遺産／2017年度）、矢走城跡（名所遺産／2018年度）、安政の大地震の記録（もの遺産／2018年度）、の

計3件（地区3）が選定されています。

トヤワタシは矢走地区の氏神・天髪王神社の秋祭り（10月）で、トヤの引継ぎをおこなう宮座の神事。愛宕山（標高275m）一帯に展開する矢走城跡（室町時代）は、矢走の地名の由来となった町内有数の山城（成瀬2004年）。松林寺の僧が書き残した安政の大地震（1854・1855年）の記録は当時の災害を物語る史料です。

持尾

持尾地区からは、迎居家の文化遺産（もの遺産／2016年度）、天髪神社（名所遺産／2017年度）、山村の原風景（景観遺産／2019年度・鉾立地区とあわせて）、ウルシの古木（自然遺産／2020年度）の計4件（地区3・複合1）が選定されています。

地区の氏神・天髪神社は古い神像をまつっており、本殿を守る木造のコマイヌがユニークです。迎居家は江戸時代に庄屋を務めた家で、文禄5年（1596）の「土地台帳（縄目帳）」をはじめとする豊富な古文書がのこされています（大淀町2021年）。地区最北部の高台から山村集落と大峯連山を望む景観もすぐれています。旧家の石垣のうえにある目通り周囲2.5mのウルシは町内でもめずらしい古木です。

芦原

芦原地区からは、正覚寺の梵鐘（もの遺産／2017年度）、芦原峠（名所遺産／2019年度）の計2件（地区2）が選定されています。

正覚寺の梵鐘は、五位堂（ごいどう）鋳物師（現香芝市）が製作した享保4年（1719）の銘をもつ町内最古の梵鐘。生涯声が出せずに夭折したという〈かずえ姫〉の供養のために造られたとする昔話が伝わります。昭和40年（1965）に芦原トンネルが開通し、風景が一変した芦原峠（標高310m）ですが、庚申さんをまつる行者堂など、江戸時代以来の街道の名残が各所にのこされています。

畑屋

畑屋地区からは、カンジョウカケ（民俗遺産／2016年度）、畑屋の湯釜（もの遺産／2017年度）、畑屋の道標（名所遺産／2018年度・北六田地区とあわせて）、カヤの巨樹（自然遺産／2019年度）の計4件（地区3・複合1）が選定されています。

カンジョウカケは、畑屋地区の集落の入口に大縄を掛け渡す、お正月の風物誌として知られています。湯釜は文明11年（1479）の「畑屋九頭神之宮」の銘が入った室町時代の貴重なもの。道標は、吉野から壺阪寺へむかう「つばさか道（畑屋越え）」を示す石造物です。集落の谷奥に立つカヤの木は、幹廻り（目の高さ）約3.3mの町内でも珍しい巨樹です。

下淵

下淵地区は、水神祭（民俗遺産／2017年度・地区内での複合選定）、巨樹と桜の並木道（景観遺産／2018年度）、石塚遺跡（名所遺産／2018年度・地区内での複合選定）、

光明寺（名所遺産／2018年度）、下市口の風景（近現代遺産／2018年度・地区内での複合選定）、三つの渡しと近代橋（景観遺産／2018年度・3地区での複合選定）、忠魂碑（近現代遺産／2019年度）、安西冬衛の詩碑（もの遺産／2019年度）、鈴ヶ森（名所遺産／2020年度）の計9件（地区8・複合1）が選定されています。

正和4年（1315）の大五輪塔が立っていた車坂峠頂上の石塚遺跡は、吉野川のほとりにある鈴ヶ森に移された行者堂とともに「大峯修験一の行場」と呼ばれていました。水神祭は、下淵八幡神社の境内にある水神社の夏祭り。旧社地（鈴ヶ森）までの神輿巡行と、祭りを盛り上げる太鼓台がにぎやかに町内を廻ります。見上げるような巨樹と桜の並木が続く「桜が丘」は、県立高校、町立小学校の通学路として戦前からの記憶を伝える場所。下市口駅前に建つ光明寺は、文化13年（1817）の本堂、明応3年（1494）の蓮如の直筆和歌、永正9年（1512）の阿弥陀如来画像などの歴史を伝えています。また、下市口駅から吉野川を渡って奥吉野へとむかう千石橋にいたる街道筋には、鉄道が開通した大正元年（1912）以降商店街がひらけ、銭湯や酒蔵などの風情ある建築が現存します。大正時代に詩人の安西冬衛（あんざいふゆえ）が「下市口にて」と題する詩を書きのこしました。また、町の在郷軍人会が昭和7年（1932）に建てた忠魂碑は、いつ

たん撤去された後、昭和 28 年（1953）に再建、後に移設。今も町の戦没者遺族会により慰霊碑として守り伝えられています。

桧垣本

桧垣本地区からは、忠臣小金吾の石塔（名所遺産／2016 年度）、桧垣本八幡神社（名所遺産／2016 年度・地区内での複合選定）、桧垣本釈迦堂（名所遺産／2016 年度）、観音寺（名所遺産／2018 年度）、桧垣本村の古絵図（もの遺産／2019 年度・地区内での複合選定）、桧垣本のオシ塚（民俗遺産／2019 年度）、お俊・伝兵衛の石碑（もの遺産／2020 年度）の計 7 件（地区 6・複合 1）が選定されています。

平安時代創建と伝える桧垣本八幡神社は、室町時代に能楽（猿楽）のお囃子の芸祖たちを輩出した「桧垣本猿楽」ゆかりの地（町教育委員会 2017 年）。そこからやや南に下った場所にある「オシ塚」は同社の伏拝所で、ここで旗を振り、近郷の人々に神社からの合図を送ったと伝えます。観音寺は、高さ 68cm の美しい千手観音立像（室町時代）をまつるほか、平安時代にさかのぼる本尊の阿弥陀如来坐像もあります。地元で管理される釈迦堂は珍しい張子の釈迦坐像（江戸時代）を安置しています。そのそばに立つお俊・伝兵衛の石碑は、明治末年に制作された近代戯曲の実演地を示したもの。小金吾は人形浄瑠璃・歌舞伎の作品「義経千本桜」に登場する平家方の人物。ゆかりの石塔が地元の地名

「金吾町」の由来になっています。また、明治 22 年（1889）以前の桧垣本村を描いた古絵図は、近代以前の農業を支えていた水利システムを知るうえで貴重な資料です。

土田

土田地区からは、ケヤキと水取り神事（自然・民俗遺産／2018 年度）、福田惇の記録映像（近現代遺産／2019 年度）、土田八幡神社の樹叢（自然遺産／2020 年度）、山の神と平城神社（名所遺産／2020 年度）の計 4 件（地区 4）が選定されています。

町指定の天然記念物・ケヤキの巨樹は、吉野川を見下ろす河川敷にたっています。例年 7 月 26 日に畝傍山にある畝火山口神社（橿原市）から宮司が訪れ、この巨樹の下の川辺で夏祭りに用いる水を汲む水取り神事は、すくなくとも宝暦 9 年（1759）以降続く長い歴史をもっています（町教育委員会 2015 年）。土田八幡神社の社叢で目をうばわれるのは海岸近くに自生する暖地性のタブノキ。この社叢は吉野地域でも数少ない縄文海進時代の記憶をとどめるものです。郷土史家・福田惇（1915-1997）が残した昭和 30～40 年代の 8mm フィルムは、昭和時代の大和の原風景や大阪万博（1970）の記録映像。昭和 54 年（1979）の南大和ニュータウンの街開きの際につくられた平城神社は、それ以前から当地に祀られていた山の神の祠もある、まさにまちづくりの原点ともいえる場所です。

越部

越部地区からは、常門遺跡の壺（もの遺産／2017年度）、三つの渡しと近代橋（景観遺産／2018年度・複合選定）、越部古墳（名所遺産／2018年度）、太玉神社（名所遺産／2019年度）、安産の滝（名所遺産／2020年度）の計5件（地区4・複合1）のおおよど遺産が選定されています。

吉野川にかかる椿橋の名前は、かつてここにあった「椿の渡し」の名残です。中越部にある常門（じょうど）遺跡からは弥生時代中期（約2,000年前）の大きな壺形土器（高さ60cm）がほぼ完形のままみつかっています。越部古墳では6世紀末頃の横穴式石室墳から「堂」の字を墨書きした平安時代の土器が発見されており、平安時代の説話集『日本霊異記』に記す「越部岡堂」との関係がうかがえます。また、奥越部で太玉神社をまつる奥田家はかつて「忌部屋（いんべや）」と呼ばれ、60年ほど前までその裏山（宮山）に天太玉（あめのふとだま）神社（樫原市）から正月用の門松を取りに来る風習がありました（大淀町1973年）。越部川を源流にさかのぼると、古くから滝行場とされてきた安産の滝があります。この滝の名前は付近の地名「安佐谷」に由来するとみられています。平安時代の延久2年（1070）頃、この地は吉野郡で唯一の興福寺の庄（荘）園だった場所。かつては「田口庄（たぐちのしょう）」と呼ばれていました（大淀町1973年）。

馬佐

馬佐地区からは、馬佐薬師堂（名所遺産／2016年度）、牛滝まつり（民俗遺産／2017年度）、弁天さん（名所遺産／2019年度・岩壺地区とあわせて）の計3件（地区2・複合1）が選定されています。

薬師堂にまつられている仏像（本尊の薬師如来坐像・両脇の十一面観音立像・地藏菩薩立像）はいずれも平安時代後期のもので、北方の安佐谷（田口地区）にあった幻の大寺院（安佐寺）から移されたと伝えます。地区の氏神・天照神社の境内にある牛滝社は牛を守る神「うったきさん」とよばれ、かつては9月のこの社の前が自慢の牛であふれ、相撲や神楽で賑わったといわれます。馬佐の弁天社は、かつて集落東方の山中（尾ノ上）にあったのが2016年に遷座され、氏神社の境内へと迎えられて今にいられます。

新野

新野地区からは、榎ヶ峯の古墳群（名所遺産／2017年度）、長胴太鼓（もの遺産／2019年度）、活版印刷の道具（名所遺産／2019年度）、金箔貼り・金箔振り（わざ遺産／2019年度）、新野八幡神社（名所遺産／2019年度）の計5件（地区5）が選定されています。

榎ヶ峯古墳は丘陵の上にある小規模な古墳で、石室内に「石棚」を設けた紀の川流域特有の横穴式石室墳のひとつです。新野地区の氏神・八幡神社はお産（安産守

護)の神で近傍からもお参りが絶えません。また氏神は女神なので、祭礼の時にしのでくるとされる男神のため、シノビゴゼンをお供えする風習があります。長胴太鼓は、江戸時代から平成時代にかけて、その胴内に太鼓の皮の張替えをおこなった年月日が記されている貴重なもの。地区内の岡本印刷所には、金属製の活字や活版印刷の機材など、吉野の近代化を下支えした道具類がそのまま残されています。また同地区では、先代から金箔貼り・金箔振りの伝統的な技を継承した高橋正氏が現役で活躍されています。

北六田

北六田地区からは、木造倉庫群(近現代遺産/2016年度)、毘沙門講の古文書(もの遺産/2017年度)、岸田日出男の遺したもの(近現代遺産/2017年度)、北六田の道標(名所遺産/2018年度・畑屋地区とあわせて)、三つの渡しと近代橋(景観遺産/2018年度・複合選定)の計5件(地区3・複合2)が選定されています。

北六田地区の氏神・櫛屋神社の「新座」に対し、安養寺境内の毘沙門堂をまつる毘沙門講は「古座」と呼ばれ、北六田村ができた頃の由来を記した古文書があり、今も書き継がれています。柳の渡しの跡地に造られた美吉野橋は、大正8年(1919)製の橋脚を転用して昭和11年(1936)に完成した、吉野川にかかる現存最古の近代橋です。近鉄六田駅周辺に造られた大

正4年(1915)～昭和26年(1951)の木造倉庫群も、町内に残る現役の木造倉庫として貴重な近代化遺産です(奈良県教育委員会2014年)。大正2年(1913)の木造倉庫もありましたが、おおよど遺産選定後、度重なる台風や著しい老朽化に耐えられず解体されてしまいました。また、北六田地区の偉人として、吉野熊野国立公園の父と呼ばれた岸田日出男(1890-1959)がいます。戦前の映画フィルムやニホンオオカミの頭骨標本など、彼の遺したものは「岸田日出男関係資料」として2018年に大淀町へ寄贈され、保存活用が図られています(水谷・松田2022年)。

比曾

比曾地区からは、ムクノキの巨樹(自然遺産/2016年度)、上比曾のいのこ(民俗遺産/2016年度)、世尊寺太子堂とおたいっさん(名所・民俗遺産/2018年度)、世尊寺の花木(自然遺産/2019年度)、放光仏(もの遺産/2019年度)、出口地藏堂の地獄絵図(民俗遺産/2020年度)、六斎念仏講衆の石塔(民俗遺産/2020年度)の計7件(地区7)が選定されています。

かつて吉野寺・現光寺もしくは地名により比曾寺(ひそでら)と呼ばれた古刹・世尊寺の本尊・阿弥陀如来坐像(江戸時代に復興)は、『日本書紀』に「放光仏」として記された伝承を受け継ぐものです。その寺の縁起をまとめた「現光寺縁起絵巻」(江戸時代)や、例年4月、聖徳太子像を

まつる太子堂（江戸時代）を開放しておこなわれる「聖徳太子報恩大会式（おたっさん）」は、吉野に根付いた聖徳太子信仰の所産。一方、同地区の高台にある共同墓地の入口には阿弥陀仏が刻まれた天正 9 年（1581）の年号をもつ六斎念仏講衆の祈念碑もあり、同地区の信仰の複雑さを示します。同地区の地蔵堂脇に立つ、幹廻り約 7m のムクノキの巨樹は、社叢以外の樹木では珍しいもの。同地区で 11 月におこなわれる「いのこまつり」は、新米の藁束（タタキワラ）といのこ唄で新婚の夫婦をことほぐ子どもの行事です。吉野川に面した出口地区の地蔵堂では、例年 8 月 24 日、本尊の石造地蔵菩薩坐像を前に、壁面に 8 幅の地獄絵図（明治時代か）が掛けられ法要が営まれています。

増口

増口地区からは、水分神社（名所遺産／2016 年度）、伊勢南街道（景観遺産／2017 年度）、茶の里・増（わざ・景観遺産／2017 年度・中増地区とあわせて）、地蔵盆（民俗遺産／2018 年度・西増地区とあわせて）、大北作治郎の遺産（近現代遺産／2019 年度）の計 5 件（地区 3・複合 2）が選定されています。

水分神社は、地元増口地区と隣接する吉野町上市地区の氏子により守られています。見上げるような高い石段は江戸時代に「筏連中」が寄進したもので、吉野建の割拝殿が象徴的です。増口地区では、8

月 24 日の地蔵盆の際、5 箇所在地蔵堂に、野菜などで作った「ツクリモノ」を供える風習があります。地区内にある大正 3 年（1914）建立の吉野郡茶業組合の碑には、当時「増の里」が吉野随一の茶の産地として隆盛した歴史やその普及に生涯をささげた先人たちの志が刻まれています。同地区の通称「梅山」には、明治 30 年代初頭に建てられた茶室風の建物「迎春庵」があります。これは「大淀」の名付け親としても知られる地区出身の政治家・文化人、大北作治郎（1843-1901）が晩年に作った草庵を山の上から移設したものです。

西増

西増地区からは、高見地蔵（名所遺産／2017 年度）、前田家文書（もの遺産／2018 年度）、地蔵盆（民俗遺産／2018 年度・増口地区とあわせて）の計 3 件（地区 2・複合 1）が選定されています。

高見地蔵は、地区内の東福寺の高僧の「私が死んだら高見山がみえる場所に石の地蔵を作ってほしい」との遺言により、延享 2 年（1745）に作られました。今も東方にみえる名峯・高見山をみつめています。同地区で江戸時代に庄屋を務めた前田家には、蘭学者・緒方洪庵の適塾に通い、医学を志していた「前田順蔵」のオランダ語のメモ書きが伝わっています（大淀町 2021 年）。地区内では毎年 8 月 24 日の地蔵盆の際、8 箇所在地蔵堂に、野菜などで作った「ツクリモノ」を供えます。

中増

中増地区からは、おかげ灯籠（民俗遺産／2017年度）、観経曼荼羅（もの遺産／2017年度）、茶の里・増（わざ・景観遺産／2017年度・増口地区とあわせて）、日章旗（近現代遺産／2020年度）の計4件（地区3・複合1）が選定されています。

中増地区は製茶の里として知られ、茶畑の広がる景観と、伝統的な製法でつくる「日干番茶」などが受け継がれています。その製茶の技を伝えた恩人・籠屋忠次郎の供養碑が安養寺境内にあります。同寺には享保5年（1720）の裏書をもつ一辺約2mの観経曼荼羅（いわゆる當麻曼荼羅の縮小版）も残されています。このような観経曼荼羅は奈良県内でも数例しか知られていない貴重なものです。また同地区の氏神・小幡神社の境内にある天保2年（1831）に作られた石灯籠には、伊勢神宮への参拝（おかげ参り）を意味する「おかげ」の文字が刻まれています。

大淀町内各地（広域選定）

地区や特定の場所に限らず、町内各地に点在する遺産をまとめて選定するのが「広域選定」です。

比曾石（もの遺産／2018年度）、柿の葉ずし（わざ遺産／2018年度）、龍門騒動の記憶（もの遺産／2018年度）、吉野鉄道の遺産（近現代遺産／2019年度）、交差点の道標（もの遺産／2020年度）、農村の原風景（景観遺産／2020年度）、教育者たちの

記念碑（近現代遺産／2020年度）、吉野群山（景観遺産／2020年度）、吉野川（景観遺産／2020年）、町史編纂の記録（近現代遺産／2020年）、大淀おどり（わざ遺産／2020年）の計11件があります。また、大淀町を象徴するおおよど遺産として、大淀町章（近現代遺産／2020年）が選定されています。

大淀町内各所の高台から南方に眺める事のできる吉野群山や、朝夕の光に照らされ、四季折々の彩りをみせる吉野川の風景は、大淀町を象徴する景観遺産といえます。また大淀町一帯は、江戸時代から明治時代にかけて「吉野一の米所」として知られていました。戦後の開発が進むなかで守り続けられてきた、人と自然が共存する「田んぼ」も、大淀らしい農村の原風景といえます。柿の葉ずしは山の幸である柿の葉と、里の幸であるお米、そして海の幸であるサバを組み合わせた、吉野の代表的な伝統的保存食です。今も地元でふるさとの智恵と味が受け継がれています。

江戸時代、制札（掲示板）が立っていた旧街道の交差点（札の辻）には、今も旅の目印になる道標が立っています。比曾地区周辺に石切り場跡がのこる「比曾石」は石英安山岩の一種。江戸時代から明治時代にかけて、吉野郡内を中心に石造物の材料としてひろく流通しました。龍門騒動は文政元年（1818）、吉野郡14か村（大

淀町域では西増・比曾・持尾・矢走・岩壺の5か村)の百姓たちが重税に反抗して一揆をおこし処罰された事件です。その記憶は今も各地区にのこされています。

明治時代には、近代的教育を身につけた教育者たちが各地域の小学校で活躍しました。大淀町以内の旧小学校跡地には、その功績を刻んだ記念碑がのこされています。大正元年(1912)に開通した吉野鉄道(当初は吉野軽便鉄道)のレンガ造りのトンネル、石造りのプラットホームなどは、100年経った今も、近鉄吉野線の各所で使われ続けています。

大淀町では昭和45年(1970)に町の自治体史編纂事業がスタートし、昭和48年(1973)に『大淀町史』が刊行されました。当時の町の風景、暮らしぶりを記録した写真や映像など記録は、町史編纂資料として保管されています(大淀町2021年)。また、昭和41年(1966)には、町の名所旧跡をちりばめた歌詞で「大淀おどり」が制作されました。音頭にあわせて踊るふるさと・おおよどの定番曲です。現在の町章は2代目で、昭和41年(1966)に作られたものです。環をイメージした漢字の「大」と吉野川の水滴を図案化したもので、その天地をひっくり返すと、「OYODO」のアルファベット「O」「Y」をアレンジしていることがわかります。

なお、「おおよど遺産」のリストについては、本報告125・126頁に掲載しました。

III まとめ

国宝や史跡、天然記念物といった、これまでの文化財の枠にとらわれず、地域に住み続ける住民の「眼」で、ふるさとの地域遺産の魅力を再発見し、継承していくための試み、それが「おおよど遺産」です。

本書で紹介した「おおよど遺産」については、年度ごとに詳しく紹介したパンフレットを製作・公開しています。また、選定されたおおよど遺産を紹介する動画「OYODO LEGACY」も、年度ごとに制作し、大淀町公式動画チャンネル(YouTube)で公開中です。このような情報公開、動画配信、おおよど遺産をめぐるハイキングなどの催しを通じて、他府県の方にもすこしずつですが、「おおよど遺産」のとりくみが知られるようになってきました。

2021年9月には、長引くコロナ禍のもと、動画配信の手法も取り入れながら、「おおよど遺産」をテーマにしたシンポジウム・企画展を開催しました(大淀町教育委員会2021年)。現地に足を運ぶのはまだ厳しい状況ですが、動画やパンフレットを利活用しながら、状況をみて、実際に「おおよど遺産」を巡る学習会やツアーも企画したいところです。

ここ数年の、日本国内の文化財をめぐる情勢(改正文化財保護法をめぐる問題)や、各市町村に課せられた「文化財保存活用地域計画」、文化財を活かした観光振興といった矢継ぎ早の通知はたいへん目ま

ぐるしく、鷹を眼で追うような状況が続いており、戸惑うことも多くなりました。

しかし、事の本質は「どのように地域の物語を守り伝えていくか」という点にあります。そのための視点（ビジョン）や方法（テクニック）、地域住民の文化財に対するイメージ・感覚の違い、そういったものが自治体ごとに凸凹しているだけのようです。都市部と田舎、新興住宅地と過疎地では住民の価値観も違うでしょう。日本各地の文化財をめぐる「流行」には惑わされず、大淀町という自治体で、あるいは吉野という地域で、いま何が必要とされ、何が求められているのかを見きわめていく「眼」も必要です。

地域遺産は、地域住民の手で見出された「ご当地遺産」といえますが、それだけで次代につなぐことはできません。先人たちの思いをつなぐ「記憶のバトン（memory baton）」として活かすことで、より一層その価値が高まります。それぞれ地域の实情にあわせて「遺産」が多様に見直され、それが地域の誇りとして活かされ、次代へとつながっていく。そんな文化的なサイクルをイメージする必要があります。

従来、文化遺産は heritage（ヘリテージ）と訳されてきました。最近、その硬いイメージよりも、成果・伝承、人から人へのバトンというニュアンスを含めた legacy（レガシー）の訳語もみられるよう

になりました。地域遺産は、町内各地に根ざした歴史文化を特徴づける永遠の heritage（ヘリテージ）でもあり、また、地域住民の心のよりどころとして機能し、語り継がれる一方、訪問者がその地域を知り、愛着をもって心を寄せる legacy（レガシー）にもなります。

では、選定された「おおよど遺産」、そして、それを包括するような、多様な地域遺産の総体を、これからどのような人々の手で、どのような方法で次世代につなげていくのか。大淀町にとってたいへん大きな課題ですが、現状では下記の図のような、「おおよど遺産を核にした地域循環型の社会」を思い描く事ができます。

これからもたゆみなく、地域の歴史と文化に根ざした人づくり、地域づくり、まちづくりを進めながら、大淀町のあるべき未来を模索していくことが大切です。



▲おおよど遺産を核にした
地域循環型の社会〈模式図〉

【参考文献】

- 大岩自治会『後世に引き継ぐ鎮守の森と氏神様 大岩神社〜ご神像 2 軀の模刻新調記念誌〜』2018年。
- 大淀町『大淀町史』1973年。
- 大淀町『大淀町伝統歳時記(DVD)』2009年。
- 大淀町『2016年度〜2020年度おおよど遺産パンフレット』2017〜2021年。
- 大淀町『みんなあつまれ！「百羽のツル」でパフォーマンズ〜メモリアルブック〜』花岡大学生誕 110周年記念事業資料集 2019年。
- 大淀町『おおよど百年史』『大淀風土記(DVD)』2021年。
- 大淀町果樹組合『大阿太高原のあゆみ』2005年。
- 大淀町教育委員会『大淀町文化財図録』2005年。
- 大淀町教育委員会『大淀町の文化財』地図でみる大淀町の歴史と文化1 2009年。
- 大淀町教育委員会『大淀町の民俗と伝統文化』2011年。
- 大淀町教育委員会『おおよどの地域文化財を学ぶ—平成19〜23年度「おおよど歴史学習会」事業成果報告書—』2013年。
- 大淀町教育委員会『吉野宮の原像を探る』大淀町地域遺産シンポジウム資料集 2016年。
- 大淀町教育委員会『「能楽」のふるさと 大淀町—歴史と現在の取り組み—』2017年。
- 大淀町教育委員会『大淀町の歴史・文化遺産(DVD)』2017年。
- 大淀町教育委員会『今木の里のもがり塚—ほくら古墳へ行こう—』おおよどの魅力再発見ブックレット1 2018年。
- 大淀町教育委員会『放光仏誕生』大淀町地域遺産シンポジウム 2019年。
- 大淀町教育委員会『わたしたちのレガシー—地域遺産を次代へつなぐ—』大淀町地域遺産シンポジウム 2021資料集 2021年。
- 蔵下稔『大淀・口吉野 文化・歴史アラカルト』2016年。
- 佐名伝区『ふるさと さなて 再発見』佐名伝分村合併50周年記念誌 2002年。
- 佐名伝 50周年記念行事実行委員会歴史探訪グループ『佐名伝の歴史探訪』佐名伝50周年記念行事歴史探訪グループ報告集 2002年。
- 佐名伝御霊神社護持会『私たちの佐名伝御霊神社 井上内親王生誕 1300年祭記念』2017年。
- 奈良県教育委員会『奈良県の近代化遺産』2014年。
- 新野区自治会『大淀町新野区の記録』『新野八幡神社写真集』2020年。
- 馬佐区『山にかこまれた小さな村 馬佐』2020年。
- 花岡大学生誕 100周年記念事業実行委員会『花岡大学生誕 100周年記念事業—大学さんの人と文学—記録集』2010年。
- 〈ボイス・オブ・タケル〉実行委員会『VOICE OF TAKERU 2018』大淀町地域遺産創生シンポジウム資料集 2018年。
- 松田度「次代へつなぐ地域遺産」『環境教育がもつ可能性』関西環境教育合同研究大会実行委員会 2019年。
- 水谷知生・松田度『岸田日出男関係資料リスト』2022年。
- 山本昭緒『わが村史—中増歴史探索ノート—』2014年。
- ※文化財調査報告書等は割愛しました。

附 編

おおよど遺産総覧

(選定順)



おおよど遺産 100 マップ


○以下は『2016～2020 年度おおよど遺産パンフレット』（2017～2021 年）の再掲です。掲載内容は基本的に刊行当時のままですが、旧版の誤字やわかりにくい表現などを修正・追加しています。

○No.46 については、選定後、対象とした道標の位置が誤っていることに気づき、このたび選定地区を「畑屋・北野」から「畑屋・北六田」へ訂正させていただきました。何とぞご了承ください。


① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字佐名伝
③ 名称			
<p style="text-align: center;">オカリヤをたてる <small>ごりようじんじゃ</small> 御霊神社の <small>あきまつり</small> 秋祭</p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部の佐名伝地区には、オカリヤたてと呼ばれる神事が古くから受け継がれています。毎年10月に行う秋祭りの大祭の一週間前、氏神である御霊神社のみたまを榊に移してオカリヤ（仮の祭殿）にお迎えし、地区の病魔退散と五穀豊穡を祈願します。秋祭の大祭には、再び氏神を神社へと送るオワタリがあります。吉野郡内でも珍しい古風な神事です。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">オカリヤでの祭礼</p>			
⑥ 連絡先	佐名伝御霊神社護持会（総代長）		


① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字佐名伝
③ 名称			
<p>しお かお やよいじん きおく さな てどうたく 潮の香りと弥生人の記憶 佐名伝銅鐸</p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部の佐名伝地区内で、個人の手によって、長年保存されてきた銅鐸です。付着した土の成分から、佐名伝の地で掘り出されたものと考えられます。つくられた時代は弥生時代の中期後半（約 2,000 年前）。「横帯分割型（おうたいぶんかつがた）」という瀬戸内海東部に特徴的な文様をもちます。紀の川（吉野川）を介した山間部と海浜地域との交流を示す銅鐸です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: right;">佐名伝銅鐸</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		


① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字 ^{さなて} 佐名伝・ ^{くまりみず} 薬水
③ 名称			
<p>なし はなかお さとやま おお あ だ こうげん 梨の花香る里山 大阿太高原</p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部の薬水・佐名伝地区にひろがる大阿太高原は、標高およそ250メートルの高さにある丘陵地帯です。このあたりでは果樹栽培に適した気候を活かし、明治35年（1902）から梨の栽培が盛んに行われてきました。知る人ぞ知る、甘くて美味しい二十世紀梨の生産地です。4月に咲く淡白の花は、清純・純潔の象徴ともされ、町の花に指定されています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">梨の花</p>			
⑥ 連絡先	大淀町果樹組合（代表）		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字 <small>くすりみず</small> 薬水
③ 名称			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: left;"> <p><small>たいしょうろまん</small> 大正浪漫のタイムトンネル</p> </div> <div style="text-align: right;"> <p><small>くすりみずもん</small> 薬水門</p> </div> </div>			
④ 説明			
<p>大淀町西部の薬水地区には大正元年（1912）、吉野軽便鉄道の開通にともない完成した現役の鉄道高架橋「薬水門」があります。道路と水路をまたぐレンガ積みの美しい二連アーチ橋は、大正時代の面影とロマンを今に伝える、貴重な現役の近代化遺産です。土木学会の平成 25 年度選奨土木遺産にも認定され、訪れる人々に静かな感動を与え続けています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">薬水門（薬水拱橋）</p>			
⑥ 連絡先	薬水区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 <small>くすりみず</small> 薬水
③ 名称			
<p><small>くすりみず</small> 薬水の由来 <small>ゆらい</small> <small>こうぼういど</small> 弘法井戸</p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部・薬水地区の地名の由来となっている井戸に、次のような伝承があります。昔、弘法大師・空海が、宇陀の室生寺と高野山の間を往来していた頃、この村の多くの人々が疫病に苦しんでいるのを知り、水の湧く場所を教えました。その水を飲むと、病気がたちまち治ってしまいました。その不思議な湧水から、薬水という地名が生れたということです。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">薬水の弘法井戸</p>			
⑥ 連絡先	薬水区（区長）		

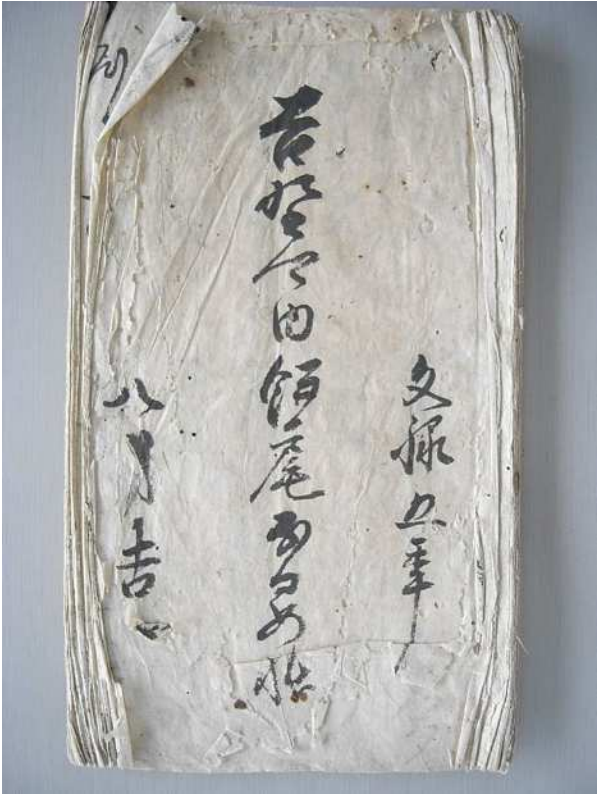
① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字今木 ^{いまき}
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> おおみそかの おく び うし うま のトンド </p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部・今木地区の中野家に伝わる古風な招福行事は「牛と馬のトンド」と呼ばれています。大晦日の夕刻、新米の藁（わら）で使った牛馬のツクリモノを高さ約2mの藁束に引っ掛けて川沿いの自宅の田んぼでともに焚き上げ、火が消えるまで見守ります。牛と馬をねぎらい、ゆく年へ感謝し、くる年の平穏無事を送り火で祈る、伝統的な文化の名残りを伝えています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p>牛と馬のトンド</p>			
⑥ 連絡先	今木区（区長）・中野勝彦		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字大岩 ^{おおいわ}
③ 名称			
<p>てん 天まであがれ おおいわ 大岩のトンド</p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部の大岩地区では、毎年1月14日の日没後、お正月の火焚き行事・トンドを行います。一年間の五穀豊穡や商売繁盛、無病息災、家内安全を願うとともに、書の上達を願って、書きためた習字を細竹の先にさし、火にかざして空高くあげる「てんびったん」が、今も続いています。夜空にむかって火の粉を散らす、高さ3mを越える大トンドは壮観です。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">大岩のトンド</p>			
⑥ 連絡先	大岩自治会（会長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字大岩 ^{おおいわ}
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> <small>でんしょう</small> <small>だいにちによらい</small> <small>おおいわじんじゃ</small> <small>しんぞう</small> アメタンモシの伝承 大日如来と大岩神社の神像 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町西部・大岩地区に大日堂には、平安時代後期（約 900 年前）に造られた、木造の大日如来坐像が伝わっています。夏の日照りが続く干ばつするとき、大日さんをお願いすれば雨を降らせてくれるといわれ、大日堂の前で雨乞い行事が行われたと伝えます。同じ丘陵の上には、鎌倉・室町時代にさかのぼる神像群をまつる大岩神社（水分神社）が鎮座しています。神像は男女一対で3組6体あり、雨乞いの神として知られる「八大龍王」であるとも伝えています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">男女一対（3組）の神像</p>			
⑥ 連絡先	大岩自治会（会長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字岩壺 ^{いわつぼ}
③ 名称			
<p>はす ^{かか} 蓮のつぼみを ^{だいにちによらい} 抱えた大日如来</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部・岩壺地区の大日寺には、室町時代の制作とみられる珍しい大日如来坐像があります。通例のような智拳印（ちけんいん）を結ばず、両手で蓮のつぼみを抱えるように握りしめ、その顔はほほえみをうかべて慈愛に満ちています。長年の信仰のためか、その姿は煤で黒く変色していますが、今でも2月の大日祭には欠かさず、村人の祈りが捧げられています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">蓮のつぼみを抱えた大日如来</p>			
⑥ 連絡先	岩壺区（区長）		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字岩壺 ^{いわつぼ}
③ 名称			
ワッタイヨーで強くなれ ^{つよ} ^こ 子ども相撲 ^{ずもう}			
④ 説明			
<p>大淀町北部・岩壺地区の葛上神社には、剛力の氏神・タチカラオが主祭されています。相撲を好む神様だとされ、10月に行われる秋祭では、その神前で、男児たちによる奉納相撲があります。まわしをしめた二人の男児の傍らに介添（かいそえ）の大人がつき、肩を組ませて腕を回し「ワッタイワッタイ、ワッタイヨー！」のかけ声をとなえると、参列者は小銭を紙に包んだハナをたくさん投げて、子どもの成長と村の安全祈願を願います。</p>			
⑤ 写真			
			
子ども相撲のようす			
⑥ 連絡先	岩壺区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字持尾 <small>もちお</small>
③ 名称			
<p>むら <small>しょうや</small> <small>ものがたり</small> <small>むかいけ</small> <small>ぶんか</small> <small>いさん</small> 村の庄屋の物語 迎居家の文化遺産</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部の持尾地区にある迎居家では、数多くの古文書が保管されています。とくに文禄5年（1596）の土地台帳「吉野郷内餅尾縄目帳（なわめちょう）」は、大淀町内に残る最古の史料として貴重です。ほかに、和鏡や下市漆器、火縄銃や天秤、茶釜など、江戸時代に代々庄屋をつとめた家の物語が、約400年の間、タイムカプセルのように保存されています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  <div style="text-align: right;"> <p>文禄5年の縄目帳</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	持尾区（区長）・迎居茂貴		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字畑屋 ^{はたや}
③ 名称			
<p style="text-align: center;">しょうがつ ふうぶつ し お正月の風物詩 カンジョウカケ</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部の畑屋地区では、年末に集落の谷あいへ、カンジョウ縄と呼ぶ長さ50mの大縄を掛け渡します。村の安全と五穀豊穰を祈る年頭行事です。氏神の祭神・八大龍王がこのカンジョウ縄となって、厄病から村を守っているのだと考えられています。かつて町内各地でおこなわれていたカンジョウカケも、今では畑屋地区でしか見ることができない風物詩です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">畑屋のカンジョウカケ</p>			
⑥ 連絡先	畑屋区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがimoto} 檜垣本
③ 名称			
<p>ちゅうしん こ きんご でんせつ せきとう 忠臣小金吾 伝説をものがたる石塔</p>			
④ 説明			
<p>大淀町中部・檜垣本地区の国道沿いにたつエノキの巨樹の下に、人形浄瑠璃等の演目「義経千本桜」に登場する、平維盛の家臣・主馬小金吾武里（しゅめのこきんごたけさと）の墓と伝える石塔があります。付近の地名・金吾町はこれに由来します。小金吾は、吉野へ逃れた維盛を探して旅をする維盛の妻子を守り、追っ手と戦い、この場所で悲運の死を遂げたといひます。</p>			
⑤ 写真			
<div data-bbox="320 1081 1236 1765" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="612 1783 938 1816">小金吾の石塔（写真中央）</p>			
⑥ 連絡先	金吾町区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがいもと} 桧垣本
③ 名称			
<p>のうがく ^{はやし} 能楽お囃子のふるさと ^{ひがいもとはちまんじんじゃ} 桧垣本八幡神社</p>			
④ 説明			
<p>平安時代の創建と伝える大淀町中部、桧垣本地区の八幡神社。江戸時代には近隣の八幡社の総社としても栄えた古社ですが、室町時代に能楽（猿楽）のお囃子の芸祖たちを輩出した「桧垣本猿楽」ゆかりの地としても知られています。木々にかこまれた境内を貫く、参道の石鳥居、桜・新緑・紅葉や雪化粧といった四季折々の風景は、訪れる人々の五感を楽しませてくれます。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="539 1780 1008 1814">桧垣本八幡神社（鳥居・参道・拝殿）</p>			
⑥ 連絡先	桧垣本八幡神社（氏子総代）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがいもと} 桧垣本
③ 名称			
<p>はりこ ほとけ ねが こ ひがいもとしゃかどう 張子の仏に願いを込めて 桧垣本釈迦堂</p>			
④ 説明			
<p>大淀町中央部、桧垣本地区の釈迦堂には、竹の骨組みに和紙を張り重ねて造った、町内でも珍しい張子の釈迦坐像があります。胎内には寛政8年（1796）の墨書柱が残され、かんなくずや過去帳、般若心経といったお経の写しなどが張り込まれており、外面からはみえない信仰の世界が広がっています。明治の頃、廃寺になった近隣の寺（三護寺）から移され、地元の講の管理となって以来、数回の補修が地域住民の手でおこなわれ、大切にまつられています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">張子の釈迦坐像</p>			
⑥ 連絡先	□桧垣本区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字馬佐
③ 名称			
<p>あさでら ほとけ ばさやくしどう 安佐寺ゆかりの仏たち 馬佐薬師堂</p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部・馬佐地区にある妙楽寺の境内に薬師堂が建っています。ここに安置されている仏たちは、北方の田口地区にあった幻の大寺・安佐寺（廃寺）に安置されていた、と伝えます。本尊の薬師如来坐像は平安時代後期の坐像。立木のままノミを入れた「立木仏」と考えられている十一面観音立像・地藏菩薩立像も平安時代後期の作で、仏師の技量の高さがうかがえます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">馬佐薬師堂の仏像群（左）と木造十一面観音立像の横顔</p>			
⑥ 連絡先	馬佐区（区長）		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字 ^{きたむだ} 北六田
③ 名称			
<p>よしのさいだいきゅう きたむだ もくそうそうこぐん 吉野最大級 北六田の木造倉庫群</p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部の北六田地区は、大正元年（1912）に開通した「吉野軽便鉄道」の終着点・吉野駅が置かれた場所で、当時の駅のプラットフォーム跡が残されています。駅跡一帯では、大正2年（1913）から昭和10年（1935）の棟札が残る木造倉庫群、昭和26年（1951）に造られた、棟の高さ13mを誇る吉野地域最大級の木造倉庫が、現在でも使われています。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="612 1798 951 1832">北村化学研究所の木造倉庫</p>			
⑥ 連絡先	北村化学研究所・大淀町教育委員会		

① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字比叢
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ふるさと を見守る ムクノキの 巨樹 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部の上比叢地区、地蔵堂のある村のまんなかに、ムクノキの巨樹がたっています。幹周りで約7メートルをはかる、社叢以外の樹木では大淀町内でも珍しいものです。台風による欠折のため、枝張りは小さくなっていますが、それでも空にむかってそびえたつ姿は生命力にあふれ、地域に緑の潤いを与えて続けています。いつまでも元気でいてほしい巨樹です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">ムクノキの巨樹（北から大峯山系を望む）</p>			
⑥ 連絡先	上比叢区（区長）		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字比曽 ^{ひそ}
③ 名称			
<p>こ^{めぐ}どもに恵まれますように 上^{かみひそ}比曽のいのこ</p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部の上比曽地区で11月に行われる「いのこまつり」。いのこ、とは「亥の子」でイノシシの子をさします。上比曽地区の子どもたちは、その年に結婚した若い夫婦の家へ行き、いのこ唄を歌いながら新米の藁束で作った「タタキワラ」を地面に何度も打ちつけて祝います。この行事は、子どもに恵まれますように、との意味合いが込められているようです。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">いのこまつりのようす</p>			
⑥ 連絡先	上比曽区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字増口 ^{ましぐち}
③ 名称			
<p>つばい もり ちんじゅ すいぶんじんじゃ 椿井の杜の鎮守さま 水分神社</p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部の増口地区に水分神社はあります。鳥居をくぐる高い石段は、明和4年（1767）と文政12年（1829）、吉野川の水運の無事を祈る「筏連中」によって寄進されたものです。石段の上には、「吉野建て」とよばれる崖造りの割拝殿。本殿は素木の神明造りで桧皮葺。地元増口地区と、隣接する吉野町上市地区の氏子たちにより、今も大切に守られています。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="612 1783 938 1816">水分神社（鳥居と割拝殿）</p>			
⑥ 連絡先	増口区（区長）・水分神社		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字佐名伝
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> こころ ことば はなおかだいがく どうわさくひん ほとけの心 とやさしい言葉 花岡大学の童話作品 </p>			
④ 説明			
<p>花岡大学（1909 - 1988）は大淀町西部、佐名伝出身の児童文学（童話）作家です。仏教の精神（ほとけの心）を土台に、童話のスタイル（やさしい言葉）で綴った作品を数多く残しています。梨畑が一面にひろがる大阿太高原の一角には、彼の名作「百羽（ひゃっぱ）のつる（1965年の作品）」の一節を刻んだ童話碑が、昭和61年（1986）10月に建てられています。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">大阿太高原に建つ童話碑</p>			
⑥ 連絡先	浄迎寺		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字 <small>くすりみず</small> 薬水
③ 名称			
<p>うじがみ いの ひ び せんしょう きがん え ま 氏神さんに祈る日々 戦勝祈願の絵馬</p>			
④ 説明			
<p>大淀町内の神社には多くの絵馬が奉納されています。本町西部の薬水八幡神社にも、天保6年（1835）9月の墨書きが記されたものをはじめ、幕末から明治期にかけての大絵馬が計5点残されています。これらの絵馬は、軍船と戦勝祈願を描いた作品が多く、日本をとりまく諸外国とのあつれきや、地域住民の切実な思いが刻まれた、「時代の語り部」としても忘れ得ないものです。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="667 1803 896 1839">天保6年の大絵馬</p>			
⑥ 連絡先	薬水八幡神社・薬水区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いまき} 今木・ ^{しもぶち} 下瀧
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> こもれびはふるさとの 灯 車坂古道 </p> <p style="text-align: center; font-size: 0.8em;"> ^{あかり} ^{くるまざか} ^{こどう} </p>			
④ 説明			
<p>大淀町の山中には数多くの古道が残されています。たとえば「車坂古道」。本町西部の今木地区の国道脇から、車坂峠の頂上にある石塚遺跡（大淀町指定文化財）へとぬける山道です。多くの旅人たちが往復した歴史街道ですが、およそ半世紀の間にすっかり竹やぶとなっていました。近年、地元の有志の人々によって道が再整備され、こもれびの中の散策路として復活しました。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>車坂古道</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字大岩 ^{おおいわ}
③ 名称			
<p>きんだい か ささ わ かんやく おおいわ やくぎょう い さん 近代化を支えた和漢薬 大岩の薬業遺産</p>			
④ 説明			
<p>大淀町の近代化を支えた伝統産業のひとつが薬業です。残された史料によると、幕末の文久3年（1863）頃、本町西部の大岩地区に、榊田安兵衛という合薬屋がいました。その後、近隣の村々で和漢薬（製薬・売薬）に携わるネットワークができ、明治・大正期には製薬会社も設立されました。大岩地区の家々には、薬祖とされる神農さんの掛け軸など、多くの遺産が保存されています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">神農さん</p>			
⑥ 連絡先	大岩自治会（会長）		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字 ^{やばせ} 矢走
③ 名称			
<p style="text-align: center;">こふう みやざ しんじ てんぱつおうじんじゃ 古風な宮座の神事 天髪王神社のトヤワタシ</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部の矢走地区は、中世に遡る神像をまつる天髪（天八）王神社を氏神とし、地区全体で宮座を構成しています。10月の秋祭では神社の境内で、氏子の身を清める湯立神事がおこなわれた後、トヤワタシと呼ばれる古風な神事があります。ゴザに並んで座ったトヤと神主が、氏子総代のふるまいを受けた後、三本の扇をつけた御幣を、前年のトヤから次年のトヤへ渡す儀式です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  <p>トヤワタシのようす</p> </div>			
⑥ 連絡先	天髪王神社・矢走区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字持尾 ^{もちお}
③ 名称			
<p style="text-align: center;">オンリーワン！の^{こまいぬ}狛犬 ^{てんぱつじんじゃ}天髪神社</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部の持尾地区には、氏神（タケミナカタ）をまつる天髪神社があります。本殿におさめられた6体の男神・女神坐像は、中世にさかのぼる持尾村の古い歴史を物語っています。</p> <p>その本殿の両脇に対でおかれた木造の狛犬には、「天保11年（1840）9月吉日 葛上郡戸毛村 家本幸助作」の墨書きがあり、そのユーモアあふれる表情で神社を守り続けています。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">天髪神社の狛犬</p>			
⑥ 連絡先	天髪神社・持尾区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 ^{あしはら} 芦原
③ 名称			
<p>かね ねいろ ひめ こえ しょうがくじ ほんしょう 鐘の音色は姫の声 正覚寺の梵鐘</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部、芦原地区の正覚寺に残る、高さ 113cm の梵鐘。そこには、当寺を菩提寺（ぼだいじ）とした、真田幸村の末裔と伝える「土井孫右衛門」の名と、五位堂（現香芝市）に代々続いた鋳物師（いもじ）の名が刻まれています。享保4年（1719）の銘をもつ、町内最古の梵鐘です。</p> <p>この鐘には、生涯声が出せずに夭折（ようせつ）した〈かずえ姫〉の話が伝わっています。その父親は「この鐘の音を姫の声だと思っておくれ」といって、涙ながらに鐘を寄進したといいます。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">正覚寺の梵鐘</p>			
⑥ 連絡先	正覚寺・芦原区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字畑屋 ^{はたや}
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{ねんつづ} ^{りゅうじん} ^{きおく} ^{はたや} ^{ゆがま} 500年続く龍神さまの記憶 畑屋の湯釜 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部の畑屋地区には、町内でもっとも古い室町時代の湯釜があります。この湯釜は鉄製で、口径 27cm、脚の高さ 26cm、3 本の鬼面のある脚で支えられています。表側に「畑屋九頭神之宮」の文字と「文明 11 年（1479）」の銘があります。畑屋という地名が 500 年以上前に遡ることや、畑屋地区の氏神・八大龍王が、かつて「九頭神（くすかみ）」とも呼ばれていたこと、この地域が古くからの龍神信仰を伝えていることなどを、静かに物語っています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">湯釜（全形と銘文拡大）</p>			
⑥ 連絡先	畑屋区（区長）		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字馬佐 ^{ばさ}
③ 名称			
<p style="text-align: center;">う^{うし}ったきさんへ牛つれて う^{うしたき}たき 牛滝まつり</p>			
④ 説明			
<p>大淀町中部の馬佐地区の氏神・天照大神社は、天照大神をまつる本殿の両脇に、弁天社と牛頭（ごず）天王をまつる八坂神社があります。八坂神社は、牛の守護神「牛滝（うったき）さん」と呼ばれてきました。毎年9月の「牛滝まつり」では農家が自慢の牛をつれて参り、相撲や神楽でにぎわったといいます。牛がいなくなった今でも「うったきさん」に豊作を祈る村人の心は変わりません。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">八坂神社を守る牛の石像（明治26年・1893年製）</p>			
⑥ 連絡先	馬佐区（区長）		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字下 ^{しもぶち} 湊
③ 名称			
の なつまつ すいじんさい みこしに乗って夏祭り 水神祭			
④ 説明			
<p>大淀町中部、下湊地区の氏神・下湊八幡神社の境内には、吉野川の大洪水で上流から流れてきた神をまつる水神社があります。7月下旬におこなわれる水神社の夏祭りでは、今の社殿から、明治40年（1907）までの旧社地・吉野川沿いの鈴ヶ森まで、水神さんに乗せた神輿（みこし）が下湊の街中をオワタリ（巡行）するならわしとなっています。祭りを盛り上げる太鼓台（子どもみこし）も、地域の宝として大切に守られています。</p>			
⑤ 写真			
 <p>子どもみこしのようす（2017年7月）</p>			
⑥ 連絡先	下湊八幡神社 下湊新町1丁目区（区長）・同西町1丁目区（区長）・同岡崎2丁目区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字越部 <small>こしへ</small>
③ 名称			
<p>やよいじん はい じょうど い せき つぼ 弥生人が入っています 常門遺跡の壺</p>			
④ 説明			
<p>大淀町中部の越部地区には、弥生時代にさかのぼる遺跡があり、地名をとって常門遺跡と呼ばれています。ここからは、ため池の工事中に、約 2,000 年前（弥生時代中期）の文様を刻んだ壺形土器がみつかっています。高さ 60cm で、ほぼ完全な形で残っているため、埋葬用の土器棺として使われたと想定されています。吉野川流域の弥生文化が詰め込まれている貴重な土器です。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="587 1803 981 1836">常門遺跡でみつかった壺形土器</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字新野 ^{にの}
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> のぞいてびっくり ^{まきがみね} 槇ヶ峯の古墳群 ^{こふんぐん} 古墳群 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町中部、越部地区と新野地区の北方にまたがる丘陵が槇ヶ峯です。この丘陵の上には、横穴式石室をもつ、6世紀後半から7世紀にかけての古墳が点在しています。なかでも、和歌山県・紀ノ川下流域の横穴式石室に特徴的な「石棚」をもつ槇ヶ峯古墳（町指定文化財）や、新野稻荷神社の境内にある稻荷山古墳は、石室の中に入って見学もできます。ぜひのぞいてみて下さい。</p>			
⑤ 写真			
			
<p>槇ヶ峯古墳（手前）とあずま屋（奥）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会・新野区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 ^{きたむだ} 北六田
③ 名称			
<p>きたむだ そうそんものがたり ^{びしゃもんこう} 毘沙門講 ^{こもんじょ} の古文書 北六田創村物語 毘沙門講の古文書</p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部の北六田地区、安養院の境内に毘沙門堂があります。『大淀町史（1973年）』によると、吉野川の対岸、吉野町六田の毘沙門天を勧請したのが北六田の「古座（毘沙門講）」の始まりといえます。その由来を記した古文書「毘沙門天産経営費其他雑記」と文政3年（1820）の「宮座諸入用帳」は、新座（氏神・櫛屋神社）ができる前の北六田の歴史を物語る貴重な史料です。</p>			
⑤ 写真			
			
<p>毘沙門講の古文書</p>			
⑥ 連絡先	北六田毘沙門講・北六田区（区長）		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字北六田 ^{きたむた}
③ 名称			
よしの ^{げんふうけい} 原風景がみえる きしだひでお ^{のこ} の遺したもの 吉野の原風景がみえる 岸田日出男の遺したもの			
④ 説明			
大淀町東部、北六田地区出身の岸田日出男（1890-1959）は、昭和 11 年（1936）に指定された「吉野熊野国立公園」の父と呼ばれています。彼が暮らした北六田地区の自宅には、指定運動にかかわる調査・研究資料と共に、植物のスケッチや標本、絶滅したニホンオオカミとみられる動物の頭骨、約 100 年前の吉野の原風景を映した古写真、映画フィルムなどが遺されていました。			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="199 1108 726 1803">  </div> <div data-bbox="750 1108 1372 1579">  </div> </div> <p data-bbox="758 1724 1396 1803">国立公園指定運動の記録と オオヤマレンゲの自筆スケッチ（岸田日出男資料）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字増口 <small>ましぐち</small>
③ 名称			
<p style="text-align: center;">いせ わかやま みち いせみなみかいどう 伊勢と和歌山をつなぐ道 伊勢南街道</p>			
④ 説明			
<p>伊勢南街道は、奈良・三重県境の高見山（高見峠）を越えて、松阪市（三重県）と和歌山市をつないだ和歌山街道の別称です。和歌山藩主が江戸へむかう、参勤交代の東西道としてもにぎわいました。大淀町では、西端の佐名伝地区から東端の増口地区まで、吉野川の北岸に沿った約 10 km がこれにあたり、道沿いには当時の道標も残っています。とくに増口地区は、大和棟の家や土蔵など、かつてのまち並みがよく保存されており、往来した旅人たちの面影を偲ぶことができます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>伊勢南街道のまち並み（西から）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同（東から）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	増口区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{にしまし} 西増
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{やま}あの山のむこうに^{いせ}伊勢がある ^{たかみじぞう}高見地蔵 </p>			
④ 説明			
<p>昔、吉野を通して伊勢まで旅する人は、高見山を目印に歩いた、といます。大淀町東部の西増地区にも、興味深い物語が伝わっています。「私が死んだら、高見山が見えるところに石造りの地蔵をおいてほしい」。西増地区・東福寺の高僧の遺言で、延享2年（1745）、高見地蔵が作られました。吉野と伊勢の境にある高見山の頂きを見つめて、向きを変えることなく今もそこにあります。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">高見山をみつめる地蔵</p>			
⑥ 連絡先	西増区（区長）		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字 ^{なかまし} 中増
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{いせ}お伊勢さんのおかげです ^{どうろう}おかげ灯籠 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部、中増地区の小幡（こばた）神社境内には、天保2年（1831）の銘を刻んだ石灯籠があります。そこには、ひらがなで「おかげ」の文字が刻まれています。江戸時代の終わり頃に流行した、伊勢神宮へ参詣する「おかげ参り」のなごりです。吉野川沿いにつらなる伊勢南街道から離れた山間部でも、お伊勢さんに向かって歩いた人々の記憶が語り継がれています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">小幡神社境内のおかげ灯籠</p>			
⑥ 連絡先	小幡神社・中増区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字中増 ^{なかまし}
③ 名称			
<p style="text-align: center;">め み あみだ せかい かんぎょうまんだら 目で見える阿弥陀さんの世界 観経曼荼羅</p>			
④ 説明			
<p>大淀町北部・中増地区の安養寺には、江戸時代の享保5年（1720）8月の裏書きをもつ、一辺約2mの大きな絵図があります。これは中将姫伝説で知られる當麻寺（葛城市）の「根本曼荼羅」をモデルに作られたもので、阿弥陀の浄土を中心とした経典『観無量寿経（かんむりょうじゅうきょう）』の世界を忠実に極彩色で表現していることから、「観経曼荼羅（観経変相図）」と呼ばれています。奈良県内でも数例しか残っておらず、吉野地域の浄土信仰を伝える遺産として貴重なものです。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">安養寺の観経曼荼羅</p>			
⑥ 連絡先	安養寺・中増区（区長）		

① 分類	わざ遺産・景観遺産	② 地域	大淀町大字 ^{なかまし} 中増・ ^{ましぐち} 増口
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{でんとう} ^{わざ} ^{こころざし} ^{ちゃ} ^{さと} ^{まし} 受け継がれる伝統の技と 志 茶の里・増 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町東部一帯は伝統的な製茶の里として知られています。茶畑の広がる中増地区の安養寺には、当地に効率的な製茶の技を伝えた恩人・籠屋忠次郎（～1837）の墓碑（供養碑）があります。また、大正3年（1914）建立の吉野郡茶業組合の碑（増口地区）にも、当時「増の里」が吉野随一の茶の産地として隆盛した歴史や、その普及に生涯をささげた先人たちの志が刻まれています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="199 1097 794 1541">  <p style="text-align: center;">茶畑の景観（中増）</p> </div> <div data-bbox="813 1097 1369 1825">  <p style="text-align: center;">茶業記念碑（増口）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	安養寺・中増区（区長）・増口区（区長）		

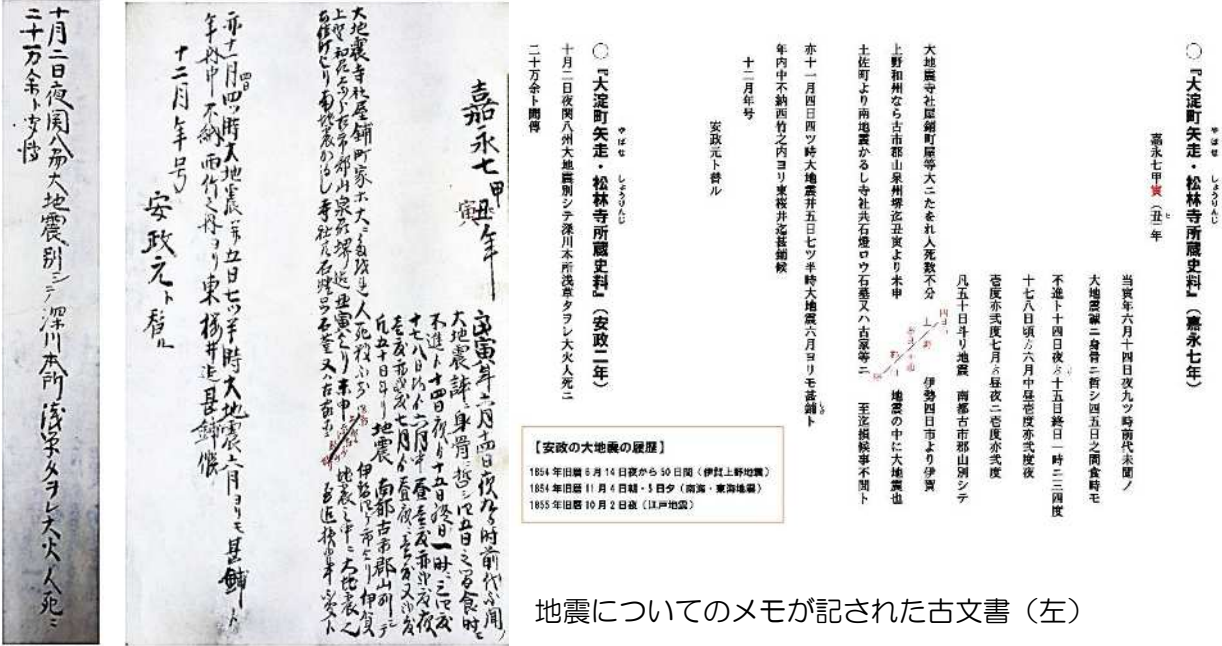
① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字佐名伝
③ 名称			
<p>こうぼうだいし ふで な 弘法大師も筆を投げたり 筆捨岩</p>			
④ 説明			
<p>佐名伝地区の吉野川ぞいには、累々と奇岩のつらなる風景がひろがっています。なかでも、川中にひときわ高くそびえる巨岩は「筆捨岩」と呼ばれています。その昔、弘法大師（あるいは絵師の巨勢金岡）がここを通りかかり、この景色を絵にしたいと思い、毎日写生にでかけましたが、日々その姿が変わるので絵を仕上げることができず、ついに筆を投げた（捨てた）と伝えられています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">筆捨岩</p>			
⑥ 連絡先	佐名伝区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いまき} 今木・ ^{なかつまし} 中増
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{ざ おうごんげん} 蔵王権現を^{まも}守り^{つた}伝える ^{いまき ごんげんどう} 今木権現堂と^{あんようじ}安養寺 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町内には、修験道の本尊・蔵王権現をまつる二つの権現堂があります。一つは、町西端の今木地区にある今木権現堂。永禄12年（1569）に作られた、奈良県内でも珍しい石造の蔵王権現像（高さ約133cm）が、室町時代の石仏群とともに安置されています。もう一つは、町東端にある中増地区の安養寺。境内の権現堂内には、平安時代後期作の木造の蔵王権現像（高さ約35cm）が安置されています（いずれも町指定文化財）。地域の宝として大切に守り伝えられています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>中増安養寺・木造の蔵王権現（左）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>今木権現堂・石造の蔵王権現（右）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いまき} 今木
③ 名称			
<p style="text-align: center;">たけるのみこ ものがたり ほくらこふん じょてい かひ 建皇子の物語 保久良古墳と女帝の歌碑</p>			
④ 説明			
<p>建皇子（-658年）は天智天皇の皇子。生まれつき声が出せず、8歳で亡くなったと『日本書紀』は語ります。彼の殯（もがり）塚、つまり仮安置した塚と伝えるのが、今木地区にある7世紀の横穴式石室墳、保久良古墳（町指定史跡）。建の死を悲しんだ祖母の女帝（齊明天皇）は、次の歌を後世に語り伝えよ、そして私が死んだらそのお墓へ建皇子を合わせ葬るように、と言いました。</p> <p>^{いまき}今城なる ^{おむれ}小丘が上に 雲だにも ^{しる}著くし立たば 何か嘆かむ（日本書紀歌謡 116）</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>保久良古墳（左上）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>建皇子イラスト（右上） （絵：今木在住・岩崎庄隆さん）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>今木泉徳寺境内にある女帝の歌碑（下）</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いまき} 今木・ ^{おおいわ} 大岩
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{どろがわ} 洞川から ^{よしのぐち} 吉野口へ ^{おおみねさくどう} 大峯索道の ^{いさん} 遺産 </p>			
④ 説明			
<p>今木・大岩地区の山中には、「大峯索道」の支柱を建てたコンクリートの基礎が残されています。大峯索道は、今から約100年前の大正7年（1918）ごろ、天川村洞川（どろがわ）にあった大峯鉱山から吉野口駅まで、鉱石などを運ぶためにつくられた総延長23.8kmの架線です。昭和初年頃には使われなくなったようですが、奥吉野の山村の産業化を物語る土木遺産として貴重です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  <p>山中に残る大峯索道の基礎</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{やばせ} 矢走
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{あたごやま} ^や ^{やばせじょうあと} 愛宕山から矢がはしる 矢走城跡 </p>			
④ 説明			
<p>矢走地区の北方にある愛宕山（標高 275m）の一带は、室町時代（14～16 世紀）にさかのぼる山城で「矢走城跡」と呼ばれています。その北方の持尾（もちお）地区にも、室町時代の石塔などが数多くみつかり、周辺にはこの城を守った人々が住まいしていたと考えられます。この城から疾風（はやて）のように飛んでくる矢のイメージが、地名の由来になったのでしょうか。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">矢走城跡のある愛宕山（左）とその頂上のようにす（右）</p>			
⑥ 連絡先	矢走区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字矢走 ^{やばせ}
③ 名称 のちのよ つた 後世に伝えたい あんせい だいじしん きろく 安政の大地震の記録			
④ 説明 嘉永7年・安政元年（1854）6月と11月、同2年（1855）10月におこった「安政の大地震（伊賀上野地震、南海・東南海地震、江戸地震）」を知っていますか。矢走地区の松林寺には、この大地震のことを記した当時の住職のメモが残っています。各地の被害のようすが克明に記されていますが、さいわい矢走地区の被害は少なかったようです。住職も「かわら版（当時の新聞）」を読みながら、被災地の人々に思いを寄せつつ、後世にその記録を伝えんと筆を取ったのでしょう。			
⑤ 写真  <p> 十月二日夜関八州大地震別シテ深川本所浅家タラレ大ハ人死ニ 二十万余ト支付 安政2年 (1855) </p> <p> 嘉永七年・安政元年 (1854) </p> <p> 【安政の大地震の歴史】 1854年旧暦6月14日夜から15日間に（伊賀上野地震） 1854年旧暦11月4日朝・5日夕（南海・東南海地震） 1855年旧暦10月2日朝（江戸地震） </p> <p> 『大淀町矢走・松林寺所蔵史料』（安政二年） 十月二日夜関八州大地震別シテ深川本所浅家タラレ大ハ人死ニ 二十万余ト支付 安政元ト書ル 十二月年号 </p> <p> 『大淀町矢走・松林寺所蔵史料』（嘉永七年） 嘉永七年庚（丑）年 当寅年六月十四日夜九ツ時兩代未聞ノ 大地震襲ニ身骨ニ折シ四五日之間食時モ 不進十四日夜六十五日終日一時二三兩度 十七日頃夕六月中懸窓度亦式度夜 窓度亦式度七月六日昼夜二窓度亦式度 八月十日斗り地震 南都古市郡山別シテ 大田園守社園細町屋等大ニ人を充数不分 上野和州なら古市郡山泉州堺迄是度より木甲 伊勢四日市より伊賀 土佐町より兩垣置かるし寺社共石壁ロウ石壁又ハ古屋等ニ 地震の中ニ大地震也 至花垣縣事不聞ト 亦十一月四日四ツ時大地震并五日七ツ時大地震六月ヨリモ甚痛ト 年内中不納西竹之内ヨリ東條井迄甚痛候 十二月年号 安政元ト書ル </p> <p> 地震についてのメモが記された古文書（左） とその古文書の翻刻文（右） </p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字畑屋・北六田
③ 名称			
<p style="text-align: center;">つぼさかでら 壺阪寺へ つづ つづ みち みち 「つぼさか道」の道標 みちしるべ</p>			
④ 説明			
<p>畑屋地区には「つぼさか道」と刻まれた石の道標があります。ここから一山越えて、壺阪寺（高取町）へ続く峠道（畑屋越え）は、吉野と大和国中（大和盆地）をつなぐ街道でもありました。今からおよそ 250 年前の安永元年（1772）、伊勢の松坂から吉野へ旅をした国学者・本居宣長（1730-1801）も、その帰りにこの道を通り壺阪寺に詣で飛鳥方面へと向かいました。長年、旅人たちを見守ってきた「つぼさか道」の道標は、北六田地区を通る谷治いの古道にもたっています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-left: 20px;"> <p>「つぼさか道」の道標（左：畑屋 右：北六田）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがimoto} 桧垣本
③ 名称			
<p style="text-align: center;">うつく ^{かんのん} 美しすぎる観音さん ^{かんのんじ} 観音寺</p>			
④ 説明			
<p>桧垣本地区にある観音寺（慈眼山普門院）には、高さ約 68cm の木造千手観音像がまつられています。唇に朱色の彩色がなされ、不思議な美しさをただよわせる室町時代の優品です。本堂に安置されている本尊・阿弥陀如来坐像も量感のある平安時代の作風で、観音寺の由緒を物語ります。応永 3 年（1396）創建と伝わる観音寺は、江戸時代初期に浄土宗へと変わっていますが、千手観音を本尊とする真言宗寺院として隆盛をほこった時代の記憶が、今でも受け継がれています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">千手観音像（観音寺）</p>			
⑥ 連絡先	観音寺		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字下 ^{しもぶち} 渕
③ 名称			
さくらが ^{おか かせ} 丘の風ひかる ^{きよじゆ さくら なみ きみち} 巨樹と桜の並木道			
④ 説明			
<p>下渕地区の高台にある奈良県立大淀高校前の道。見上げるような巨樹の並木が続くこの一帯は、戦前より桜の植樹が多かったことから通称「桜ヶ丘」と呼ばれています。今でも各所にその名残の桜の木がみられ、道行く人々の目を楽しませています。この「桜ヶ丘」の地名は、縄文時代前期（約6,000年前）の竪穴式住居跡がみつかった大淀桜ヶ丘遺跡の遺跡名と、そのうえに建つ町立大淀桜ヶ丘小学校の校名（1968年より）や校歌【さくらが丘の風ひかる♪…】にも使われています。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="427 1704 1150 1738">大淀桜ヶ丘小学校のしだれ桜（左）と巨樹の並木道（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{しもぶち} 下湊
③ 名称			
いち ぎょうば だいごりんとう いしづかいせき 「一の行場」の大五輪塔 石塚遺跡			
④ 説明			
<p>吉野川が大きく蛇行する下湊地区の鈴ヶ森。この地に建つ、修験道の開祖・役行者の石像をまつる行者堂は、昭和 13 年（1938）頃まで元車坂峠の頂上にある石塚遺跡（町指定文化財）の付近に建っていました。「大峯修験一の行場」と呼ばれたこの石塚から、車坂峠に集った修験者たちは、大峯の山々を伏し拝んだといひます。石塚付近でみつかった正和 4 年（1315）の銘を刻む五輪塔の地輪（縦約 60cm）は、金剛・葛城山麓の石材（葛城石）を用いた、在銘のものでは吉野最古の五輪塔です。この地輪は行者堂の脇に移され、石塚の脇には同大の五輪塔が復元されています。</p>			
⑤ 写真			
 <p>鈴ヶ森行者堂にある五輪塔の地輪（左）</p> <p>石塚遺跡と復元された五輪塔（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{しもぶち} 下湊
③ 名称			
<p>れんによ よしの じんせい うた こうみょう じ 蓮如、吉野で人生を詠う 光明寺</p>			
④ 説明			
<p>下湊地区の浄土真宗・光明寺は、文化 13 年（1817）再建の古風な本堂がシンボルです。ここには、浄土真宗 8 代の蓮如（1415－1499）の直筆の和歌が残されています。【仏にも 祖師にも 齢 同じくて 八十（やそ）に満ちる 身さえ尊し】。明應 3 年（1494）、蓮如が吉野巡杖の折に立ち寄って記した、釈迦や祖師（親鸞）と同じ年まで生きたことを喜ぶ 80 歳の祝い歌です。光明寺には他にも、後継 9 代・実如の名を記した、永正 9 年（1512）の阿弥陀如来画像が残されています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="336 1133 707 1879" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="727 1133 1153 1879" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1209 1167 1305 1435" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 阿弥陀如来画像（右） 蓮如直筆の和歌（左） </div> </div>			
⑥ 連絡先	光明寺		

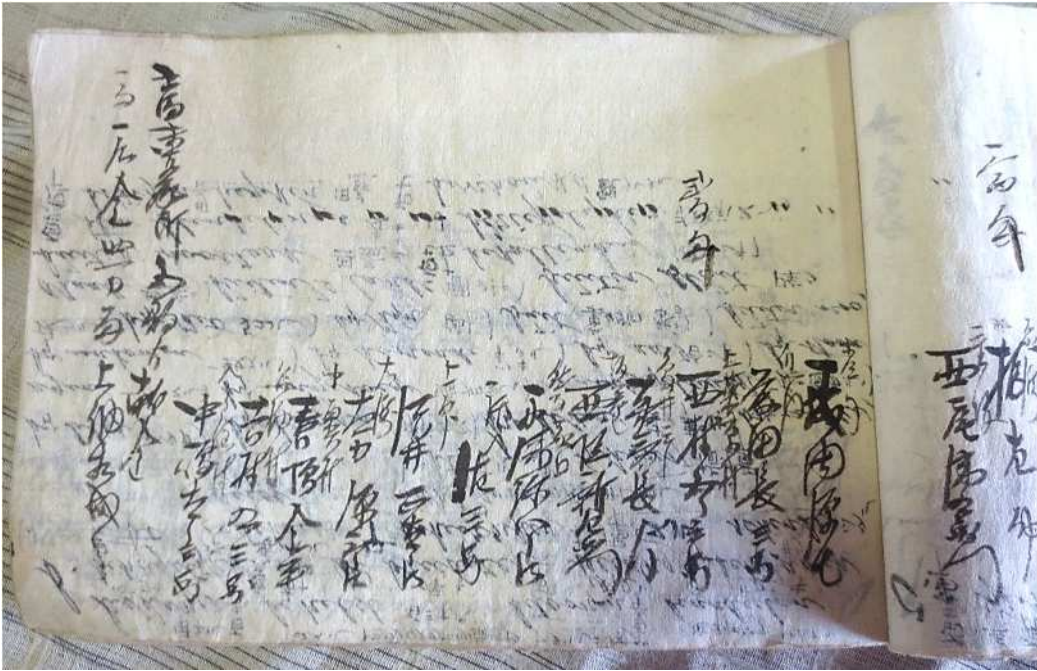
① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字下 ^{しもぶち} 湊
③ 名称			
<p style="text-align: center;">と き し も い ち ぐ ち ふ う け い 時代をこえて 下市口の風景</p>			
④ 説明			
<p>この地にはじめて鉄道が通った大正元年（1912）以降、下湊地区の下市口駅は、山国・吉野の玄関口として栄えました。それ以来多くの人々が、駅の賑わいや鉄道の汽笛を聞き、商店街の風景、木材倉庫と吉野杉の香りを作品に残しました。戦後、吉野川を渡る千石橋の北詰にできた「下湊マーケット」。戦前から続く銭湯「旭湯」。岡本本家の酒蔵もまた、商店街の記憶に残る景観です。100年の時代をこえて受け継がれてきた下市口の風景に、近現代吉野の賑わいがゆかしく偲ばれます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;">  </div> <div style="width: 35%; text-align: right;"> <p>下湊マーケット（右上） 酒蔵のある風景（左） ・旭湯（右下）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字 ^{しもぶち} 下湊・ ^{こしへ} 越部・ ^{きたむだ} 北六田
③ 名称			
<p style="text-align: center;">ふね はし みつ わた きんだいきょう 舟から橋へ 三つの渡しと近代橋</p>			
④ 説明			
<p>大淀町内には、吉野川を渡る七つの鉄橋があります。現存最古の橋は、大正8年（1919）にできた木造橋の橋脚を転用し、昭和11年（1936）に完成した北六田地区の美吉野橋。この美吉野橋と千石橋（下湊）、椿橋（越部）の地は、橋ができる前から、柳の渡し（北六田：町指定史跡）、桧の渡し（下湊）、椿の渡し（越部）と呼ばれ、「渡し舟」が往来する渡し場でもありました。川を渡る手段が変わっても、橋の名前や残された石灯籠、今に続く祭礼行事がその記憶を伝えています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> <p>美吉野橋（左上）と柳の渡し祭りのようす（右上） 椿橋（左下）・千石橋（右下）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	自然・民俗遺産	② 地域	大淀町大字 ^{つった} 土田
③ 名称			
よしの ^{みず} きよ 吉野の水よ清らかに ケヤキと ^{みずと} ^{しんじ} 水取り神事			
④ 説明			
<p>吉野川を見下ろす土田地区の線路脇に、ケヤキの巨樹（町指定天然記念物）が枝を広げています。かつては、ケヤキのそばまで吉野川の淵がせまっていた。例年7月26日、畝傍山（橿原市）にある畝火（うねび）山口神社の宮司がこの淵へ来て、神社の夏季大祭「でんそそ祭り」に用いる水を汲む神事（町指定無形民俗文化財）がおこなわれます。宝暦9年（1759）以来続くこの神事は、大和国中（大和盆地）の人々にとって、「吉野川の水」がもつ歴史的な意義を今に伝えています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">枝を広げるケヤキの巨樹（左）</p> <p style="text-align: center;">吉野川に設けられた水取り場（右）</p>			
⑥ 連絡先	土田区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字越部
③ 名称			
<p style="text-align: center;">なしのきほとけ おかどう でんしょう こしべ こふん 梨木仏と「岡堂」の伝承 越部古墳</p>			
④ 説明			
<p>越部地区の小字「堂ノ上（どのうえ）」と呼ばれる丘には6世紀末頃の横穴式石室墳（越部1号墳）があります。平成9年（1997）の発掘調査で、石室のなかから「堂」という墨書きの平安時代（10世紀）の土器がみつかりました。平安時代初期（9世紀中頃）に書かれた説話集『日本霊異記（にほんりょういき）』には聖武天皇の時代（8世紀）、「梨の木」で彫られた阿弥陀・弥勒・観音の仏を「越部村の岡堂に安置した」と記します。「梨木仏」は、この古墳の近くにまつられていたようです。</p>			
⑤ 写真			
			
⑥ 連絡先		大淀町教育委員会	

① 分類	名所・民俗遺産	② 地域	大淀町大字比叢 ^{ひそ}
③ 名称			
<p style="text-align: center;">たいし しんこう いさん せそんじ たいしどう 太子信仰の遺産 世尊寺太子堂とおたいっさん</p>			
④ 説明			
<p>上比叢地区にたたずむ寛延 4 年・宝暦元年（1751）創建の曹洞宗・世尊寺。それより以前、この地にあった比叢寺（現光寺）の伽藍と、荒れ果てていた境内を復興するため、聖徳太子信仰にもとづく寺の由緒を記した「現光寺縁起絵巻（町指定文化財）」が 17 世紀に作られ、享保 9 年（1724）頃には、太子信仰の拠点となる「太子堂（県指定文化財）」が建てられました。例年 4 月 29 日には「聖徳太子報恩大会式（おたいっさん）」がおこなわれ、地域がにぎわう行事となっています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 45%; font-size: small;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">世尊寺太子堂の本尊・聖徳太子十六歳の孝養像（右） 会式「おたいっさん」のごくまぎ（左上）と太子堂（左下）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	上比叢区（区長）・世尊寺		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 ^{にしまし} 西増
③ 名称			
<p style="text-align: center;">らんがく ディーエヌエー まえだ けもんじょ 蘭学のDNA 前田家文書</p>			
④ 説明			
<p>天保9年(1838)、オランダ学(蘭学)者の緒方洪庵(1810-1909)が大坂に開いた「適塾」。西増村出身の「前田順蔵」は、文久元年(1861)から洪庵に師事し、適塾に通っていました。</p> <p>西増地区の前田家は代々庄屋をつとめた家で、残されていた19世紀(幕末~明治初年)の古文書のなかに、オランダの医学用語を綴った紙を裏紙にして書かれた、慶応元年(1865)の「五條県吉野郡総代覚書」があります。吉野の地に受け継がれた「蘭学のDNA」を示す遺産です。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">古文書の裏紙に見えるオランダ語</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字 ^{にしまし} 西増・ ^{ましぐち} 増口
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{やさい}アイデア野菜でツクリモノ ^{にしまし}西増・^{ましぐち}増口の^{じそうぼん}地蔵盆 </p>			
④ 説明			
<p>西増・増口地区では、毎年8月24日の夕刻から地区全体で「地蔵盆」がおこなわれます。西増地区では8箇所、増口地区では5箇所の地蔵堂が垣内（かいと）ごとに開扉され、地域の住民が集い、子どもたちが順番に地蔵堂にお参りして、お菓子などをもらって楽しめます。その折のお供え物として、垣内の人々が様々な野菜などを組み合わせてつくるお供え物（ツクリモノ）があります。その年ごとにアイデアと工夫にあふれたお供え物が登場し、地域の賑わいと笑顔を誘っています。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">地蔵盆のツクリモノ（西増地区）</p>			
⑥ 連絡先	西増区（区長）・増口区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
いし ささ ち いきさんぎょう ひ そいし あかい石が支えた地域産業 比曽石			
④ 説明			
<p>吉野の産業を支えたのは、林業だけではありません。比曽地区周辺に石切り場が残る、あかみをおびた「石英安山岩（せきえいあんざんがん）」もその一つ。北六田地区に残る明暦2年（1656）の庚申塔をはじめ、墓石や石仏、石灯笼、階段、礎石など、多様な石造物の材料として使われ、江戸時代から明治時代にかけて、吉野郡内を中心にひろく流通しました。この比曽石をとるために、多くの石工や運搬にかかわった人々が付近に住み、日夜、石割の音を響かせていたと想像されます。</p>			
⑤ 写真			
			
比曽出口・地藏堂前の線路脇に立つ比曽石製の石造物			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	わざ遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p style="text-align: center;">ち え あじ かき は つく ふるさとの智慧と味 柿の葉ずしを作ろう</p>			
④ 説明			
<p>海の幸（サバ）、山の幸（柿の葉）、里の幸（お米）がひとつにあわさってできる「柿の葉ずし」は吉野の伝統的な保存食です。今はお店で買うことが多くなりましたが、吉野川ぞいでは6月1日の川開き（アユ釣りの解禁）、夏まつりのごちそうとして、各地域・各家庭で柿の葉ずしを作ってふるまう風習がありました。大淀町では、柿の葉ずしを作り続けてきたおばあちゃんたちが、ふるさとの智慧と味、経験と思い出を、次の世代へ語り継ぐ事業にもとりこんでいます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">手作りの柿の葉ずし（左）と紙芝居「柿の葉ずし」のイラスト（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p style="text-align: center;">かた つ ひ わ りゅうもんそうどう き お く 語り継がれる秘話 龍門騒動の記憶</p>			
④ 説明			
<p>今から約200年前の文政元年（1818）。江戸幕府の旗本・中坊氏の所領だった吉野郡15ヶ村のうち、矢治村をのぞく14ヶ村の百姓たちが重税に反抗して一揆を起し、龍門郷・平尾村の代官所を襲い、代官（浜島清）が殺害されました。一揆に参加した百姓たちは厳しい罰をうけ、大淀町域にあった5ヶ村にも、処罰された人々の知られざる秘話が残されています。領主の中坊氏はこの後、住民に重税を課すことはなく、村々の長たちも以降、領主に共感をもって歩み寄りました。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">比叢・世尊寺にまつられる中坊氏(秀祐)の彫像(左) 中坊氏の武運長久を刻む矢走地区の石灯籠(右)</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字今木・下瀧 ^{いまき しもぶち}
③ 名称			
<p>よしの みず くんなか よしの がわぶんすい 吉野の水を国中へ 吉野川分水</p>			
④ 説明			
<p>吉野の水を国中（大和盆地）へ。「吉野川分水」への願いは、江戸時代以来の願いでした。それが実現したのは、昭和31年（1956）7月の事。吉野川の水を取り込む水門「下瀧頭首工（とうしゅこう）」は、昭和49年（1974）3月に完成。ここで取り込まれた水は、6月から9月にかけて専用の水路へと送られ、北方の山中を貫くトンネル（導水隧道）に入り今木地区で再び顔を出します。そして、またトンネルを抜け御所市樋野で調整され、大和盆地の各地へと分水されていきます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="217 1176 837 1525"> </div> <div data-bbox="871 1176 1377 1845"> </div> </div> <p style="margin-top: 20px;">下瀧頭首工（左） 今木導水路（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いまき} 今木
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{ちょうちん} ^{こころひと} ^{かぶとじんじゃ} ^{あきまつ} ススキ提灯で心一つに 甲神社の秋祭り </p>			
④ 説明			
<p>今木地区の氏神・甲神社は、社伝によると飛鳥時代の豪族・蘇我入鹿（そがのいるか）の甲をまつっているといわれます。毎年10月に行なわれる甲神社の秋祭りは、前日の宵宮（よみや）から始まります。夜のとばりが下りる頃、太鼓の音とともに、明かりを灯した高さ約4mのススキ提灯が、地区の9つの垣内（かいと）から集い、社殿のまわりを囲みます。祭典後には、地元子ども会による巫女舞、太鼓演奏の奉納と続き、翌朝の本祭にむけてみんなが心を一つにします。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="226 1265 844 1724" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="855 1270 1356 1550" style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 甲神社の鳥居（左） 秋祭り・宵宮（右） </p>			
⑥ 連絡先	今木区（区長）		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ほこたて} 鉾立・ ^{もちお} 持尾
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> こころ 心にのこそう さんそん げんふうけい 山村の原風景 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町内には、心にのこしたい山村の原風景があります。たとえば町の北西部、鉾立川の源流に位置する鉾立地区は、石垣のうえに人家が点在する小さな村。谷奥の蓮池から、鳥の声をBGMにして眺める風景は、たとえようのない美しさです。町北部の持尾地区も、南にひらけた高原性の山村。最北部の高台にある浄土宗・金蓮寺（こんれんじ）から南を望む景観は、大峯連山を一望できる絶好のスポット。まるで天空の里に来たかのような感動を味わうことができます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 鉾立・蓮池から西を望む（左） 持尾・高台から南を望む（右） </p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いわつぼ} 岩壺・ ^{ばさ} 馬佐
③ 名称			
<p>みず ^{かみ}水の神、^{ときどき}時々、^{こうふく}幸福の女神 ^{めぐみ}弁天さん ^{べんてん}弁天さん</p>			
④ 説明			
<p>弁天（弁財天）は仏を守る神「天部」の一つ。雨水をつかさどる龍神、財宝や芸能の守護神、七福神の紅一点「弁天さん」としても知られています。町内では岩壺・馬佐地区に弁天社があります。高台に建つ岩壺の弁天社（巖島神社）は、約680年前の文献に「和州岩坪弁財天」の名で登場し、今でも遠方からの参拝者があります。馬佐の氏神・天照大神社の本殿脇にある弁天社はかつて集落東方の山中（尾ノ上）にありましたが、次代への継承にむけて2016年、現地へ遷座しました。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">岩壺の弁天社（左）と馬佐の弁天社（右）</p>			
⑥ 連絡先	岩壺区・馬佐区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{あしはら} 芦原
③ 名称			
<p style="text-align: center;">かいどう き おく あしはらとうげ のこされた街道の記憶 芦原峠</p>			
④ 説明			
<p>芦原地区は、国中の高取方面と吉野を行き交う街道（今の国道 169 号線）沿いにできた集落。かつての芦原峠（標高約 310m）は厳しい道で、S 字カーブの急勾配を、花見客のバスがエンジンをふかせ、往来していました。やがて昭和 40 年（1965）3 月、芦原トンネル（延長 770m）が開通。往還はスムーズになり交通量も増大。峠の旧道はその役割を終えましたが、国道沿いには旅人たちを見守る行者堂があり、にぎやかだった峠の村の記憶は今も各所にのこされています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div> <p>芦原トンネル（左上） 芦原行者堂（右上） 芦原行者堂横の庚申さん（右下）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字下 ^{しもぶち} 渕
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> せんそう き おく ちゅうこん ひ のこされた戦争の記憶 忠魂碑 </p>			
④ 説明			
<p>下渕地区の町営墓地入口にある高さ 3.1m の忠魂碑。明治時代以来、国を守った郷土の兵士（戦没者）に感謝の意を込めて建てられたものです。昭和 7 年（1932）、町立大淀第二小学校（現町立大淀桜ヶ丘小学校）の校庭内に、町の在郷軍人会が中心となって建てた忠魂碑は、昭和 20 年（1945）の終戦後に撤去されましたが、昭和 28 年（1953）有志により再建。平成 15 年（2003）、今の場所に移設されました。現在、町戦没者遺族会によって慰霊碑として大切に守られています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="264 1146 807 1861"> </div> <div data-bbox="855 1173 1214 1850"> </div> <div data-bbox="1286 1182 1369 1397" style="writing-mode: vertical-rl;"> 忠魂碑・裏（右） 忠魂碑・表（左） </div> </div>			
⑥ 連絡先	町戦没者遺族会		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 ^{しもぶち} 下湊
③ 名称			
<p>しもいちぐち あんざいふゆ え し ひ 下市口にて 安西冬衛の詩碑</p>			
④ 説明			
<p>下湊地区にある町中央公民館のロビーに、大きな春日杉の切り株があります。そのウロになった部分に、散文詩「下市口にて」の一節を記した詩碑が埋め込まれています（揮毫者は書家・西浦雪華さん）。詩の作者は、大阪で活躍した詩人・安西冬衛（1898-1965）。昭和 16 年（1941）の夏の夜明け前、下市口駅は吉野杉の香りがただよふ静かな空間でした。列車を待つ冬衛は 12 歳の長男と共に駅前の風景を見、その印象を作品にのこしました（詩集『大学の留守』1943 年所収）。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px; writing-mode: vertical-rl; font-size: small;"> 安西冬衛の誌碑「下市口にて」 </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがいもと} 桧垣本
③ 名称			
<p>のう ささ すいり ひがいもとむら こえず 農を支えた水利システム 桧垣本村の古絵図</p>			
④ 説明			
<p>桧垣本地区は、吉野郡内有数の農業地帯で水田も多く、稲作も盛んです。今では農家も少なくなりましたが、地区最大のため池「宮池（大淀町役場・町文化会館の場所にありました）」を中心とする「水利システム」が江戸時代から発達し、今でもその智慧と工夫が活かされています。地元にあるこの桧垣本村時代の古絵図は、明治22年（1889）以前の村の姿を描いたもので、近代以前から続いている農業と水利、道と土地利用といった情報を知ることのできる、貴重な歴史資料です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p style="writing-mode: vertical-rl;">桧垣本村の古絵図（桧垣本八幡神社と宮池周辺）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがimoto} 桧垣本
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> ^{はた} ^ふ ^{ひがimoto} ^{づか} ここで旗を振った 桧垣本のオシ塚 </p>			
④ 説明			
<p>桧垣本地区にある関西電力（株）吉野技術サービスセンター南東側の、田のあぜ道に残る小さな高まり。「オシ塚」と呼ばれるこの場所は、西の高台にある桧垣本八幡神社の「伏拝所（ふしおがみしょ）」と伝えられています。その由来は、昔々、吉野川の洪水で川が渡れない時、近郷の人々が、この塚で旗（幣帛）が振られるのを合図に、桧垣本八幡神社の社に向かって伏し拝んだから、といひます。また、桧垣本八幡神社に参れない人々はこの塚から神社を伏し拝んで帰ったとも伝えます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">オシ塚（東から）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字 ^{つた} 土田
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> プレイバック しょうわ 昭和 ふくだつとむ 福田 惇 きろくえいそう の記録映像 </p>			
④ 説明			
<p>土田地区出身の郷土史家・福田惇（1915-1997）は、文学・演劇に興味をもち、考古学が趣味でした。彼がのこした資料のなかに、昭和 30～40 年代撮影の 8mm フィルム 14 点があります。「やまと」「石仏」「大和を歩く」「大和の古墳」と名付けられた記録映像からは、失われつつあった昭和時代の大和（奈良県）の原風景をうかがうことができます。また、昭和 45 年（1970）開催の日本万国博覧会（大阪万博）を映した「EXPO'70」という貴重な記録映像もあります。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">「大和の古墳」（1971 年）より（左）、記録映像「EXPO'70」（1970 年）より（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字畑屋 ^{はたや}
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> いっぽん この一本がのこった カヤの^{きよじゆ}巨樹 </p>			
④ 説明			
<p>畑屋地区の集落のつきあたり、ため池をこえて、さらにその奥の谷の南向きの斜面に、カヤ（榎）の巨樹が立っています。高さは目視で8m以上、幹周りは目の高さで計測して約3.3m。しっかりと根を張り、樹勢も良好です。カヤは、イチイ科カヤ属の常緑針葉樹。主に将棋や碁の盤材として用いられることが多く、この樹もそのために植えられたのが、たまたまこの場所にのこされたのかもしれませんが。カヤの巨樹は町内でも珍しく、躍動的なその姿は一見の価値があります。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>カヤの木目の拡大（左）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>カヤを見上げたところ（右）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{こしべ} 越部
③ 名称			
<p>おくこしべ いんべ さと ふとだまじんじゃ 奥越部に忌部の里 太玉神社</p>			
④ 説明			
<p>太玉神社は町の北部、県道今木出口線に面した、奥越部地区の宮山の中腹に鎮座しています。神社に隣接する奥田家がまっています。奥田家はかつて「忌部屋」の屋号をもっていました。忌部氏は、朝廷の神事をつかさどった古代氏族。檀原市忌部町にある天太玉（あめのふとだま）神社は、その総氏神として知られています。年の暮れ、奥田家の裏山（宮山）へ、天太玉神社から正月用の門松を取りに来る風習があり、昭和38年（1963）まで続いていました（『大淀町史』1973年）。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="248 1167 743 1816">  </div> <div data-bbox="775 1167 1358 1599">  </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>太玉神社の鳥居（左） 太玉神社の本殿（右）</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字新野 ^{にの}
③ 名称			
<p>よよ^{とき}つ 世々に時を告げながら ^{ながどうだいこ}長胴太鼓</p>			
④ 説明			
<p>新野地区に伝わる長胴太鼓（ケヤキ製）は、行事の始まりを知らせる刻太鼓（ときだいこ）として使われてきました。その内側には、太鼓の皮の張り替えをした年月日が墨書で記されています。これによると「元文 5 年（1740）」「寛亨 3 年（寛延 3 年・1750 の書き間違いか）」「寛政 11 年（1799）」「文化 11 年（1814）」「平成 7 年（1995）」「平成 30 年（2018）」の計 6 回です。今にいたるまでの 280 年間、世々に時を告げながら受け継がれてきたこととなります。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>太鼓の木目（左）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>太鼓と張り替えられた皮（右）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	新野区（区長）		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字新野 ^{にの}
③ 名称			
<p>よしの きんだいか したざさ かつぱんいんさつ どうぐ 吉野の近代化を下支え 活版印刷の道具</p>			
④ 説明			
<p>新野地区の岡本印刷所には、吉野地域の近代化を下支えした、様々な印刷道具が保存されています。その一つ、逆さ文字を浮き彫りにした版木を使う「木版刷り」は、大正時代頃まで盛んにおこなわれていました。昭和時代には、金属製の「活字（かつじ）」を拾って版組みし、印刷機にかける「活版印刷」が盛行。これが印刷業に導入されたことで、大量の印刷（出版・広告）が可能になりました。この印刷所では、年季の入った活版印刷機もまだ現役で使われています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">金属製の活字（左）と活版印刷機（右）</p>			
⑥ 連絡先	新野区（区長）・岡本印刷所		

① 分類	わざ遺産	② 地域	大淀町大字新野 ^{にの}
③ 名称			
<p>にほんこらい でんとうてき わざ きんぱくは きんぱく^{にの}ふ 日本古来の伝統的な技 金箔貼り・金箔振り</p>			
④ 説明			
<p>金箔は、紙のように金を薄く延ばしたものです。新野地区には、その金箔をあつかう「金箔貼り」「金箔振り」の職人・高橋正さん（68）がいます。様々な大きさの紙の素地（たとえば屏風など）に、10cm 四方の金箔をのりで貼り付けていく作業が中心で、羽二重の布地を重ねて木目模様仕上げることも、金箔の粉を素材に振りかけて仕上げることもあります。先代の父から継承し、50年以上の経験を有する高橋さんは、日本古来の伝統的な技の持主です。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">金箔職人・高橋正さん</p>			
⑥ 連絡先	新野区（区長）		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字新野 ^{にの}
③ 名称			
うしがみ ^{さん} めがみ ^に のはちまんじんじゃ 氏神さんはお産の女神 新野八幡神社			
④ 説明			
新野地区の国道沿いに建つ石の鳥居。これが氏神・新野八幡神社の入口です。鳥居の前には「安産守護」の字を刻んだ石柱が立てられています。本殿の主祭神は「お産」の神とされ、祭礼のときは、御幣にフングリ（米を入れた袋）をくくりつけて、それでおはらいをしてもらう、あるいはその米を食べると安産になるといいます。また、氏神さんは女神だから、祭礼のときは男神がしのんでくるといい、本殿の脇（向かって右下）にシノビゴゼン（忍御膳）をお供えする風習があります。			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="margin-top: 10px;">神社境内と本殿（左） 鳥居と石碑（右）</p>			
⑥ 連絡先	新野区（区長）		

① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字比曽
③ 名称			
<p>はな みどり つつ せそんじ かほく 花と緑に包まれて 世尊寺の花木</p>			
④ 説明			
<p>上比曽地区の古刹・世尊寺の魅力の一つは、四季折々の花木です。庫裏前に赤い花をつけるハナノキは、3月の彼岸すぎに咲く珍しい木です。続いて4月は境内の桜、おくれて藤棚のフジがいっせいに咲き乱れます。5月はツツジや、あざやかな緑のなかに咲くウケザキオオヤマレンゲが、ふくよかな香りを漂わせます。初夏には樹齢 100 年を越すサルスベリの白い花が咲き、秋は境内全域が真っ赤なヒガンバナの海になります。まさに年中楽しめる、花と緑の御寺（みてら）です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">      </div> <p style="text-align: center;">（上段左から）ツツジ・ウケザキオオヤマレンゲ・ハナノキ （下段左から）桜・ヒガンバナ</p>			
⑥ 連絡先	世尊寺		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字比叢 ^{ひそ}
③ 名称			
<p>えんぎ えまき ものがた ほうこうぶつ 縁起絵巻は物語る 放光仏</p>			
④ 説明			
<p>日本に仏教が伝わった頃、大阪の茅渟海（ちぬのうみ）に漂っていた光り輝く樟（くす）で仏像が作られたといわれます。それが『日本書紀』に記す「吉野寺（よしのでら）」、別名・現光寺（比叢寺）の「放光仏」です。江戸時代の17世紀後半、荒れはてた名刹復興のため、伝承を物語る上下2巻の「現光寺縁起絵巻」が作られました。元禄13年（1700）には本尊の「放光仏」が有志により「再興」されました。いずれも「吉野寺」の法灯を受け継ぐ、上比叢地区の世尊寺に伝わっています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">放光仏を彫る（「現光寺縁起絵巻」より・左） 世尊寺本尊の放光仏（阿弥陀如来坐像・右）</p>			
⑥ 連絡先	世尊寺		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字増口 <small>ましぐち</small>
③ 名称			
<p>おおよどちょう なづ おや おおきたさくじろう いさん 大淀町の名付け親 大北作治郎の遺産</p>			
④ 説明			
<p>増口地区出身の大北作治郎（1843-1901）は、大淀町の前身・大淀村（1889～1921）の名付け親で、奈良県議会や衆議院議員として活躍しました。郷土の発展に尽力しただけでなく、書をよめる文化人としても知られ、「温」「桂峯」の雅号をもっていました。また梅の花を愛し、自宅の庭に梅を数百株植えて「梅山人」とも称したそうです。増口には彼の住まいや山荘として造った茶室風建物「迎春庵」が現存し、吉野神宮境内にも彼を讃える顕彰碑（1903年建立）があります。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  <p>大北作治郎の造った「迎春庵」</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p>せんろ つづ 線路は続くよいつまでも よしの てつどう いさん 吉野鉄道の遺産</p>			
④ 説明			
<p>今から約 100 年以上前のこと。大正元年（1912）に、吉野の近代化を告げる大きな出来事がありました。鉄道の開通です。当時「吉野鉄道（吉野軽便鉄道）」と呼ばれた山岳列車でした。最初の駅は吉野口駅、下市口駅、吉野駅（現在の六田駅）の3箇所でしたが、その後吉野駅が吉野山の麓まで延長され、駅数も増えました。線路の幅（狭軌）、レンガ造りのトンネル、石造りのプラットフォームなど、吉野鉄道時代の名残は、今の近鉄吉野線の各所にそのまま残されています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>レンガ造りの佐名伝暗渠（左：この上に線路が通る） 近鉄下市口駅・旧プラットフォーム（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字佐名伝
③ 名称			
<p>たいりくふう 大陸風のまなざしで</p> <p>ぶつげんじ 佛眼寺</p>			
④ 説明			
<p>佐名伝地区の佛眼寺（浄土宗）は、元禄年間（1688～1704）の史料（「蓮門精舎旧詞」）によると、永禄13年（元亀元年・1570）6月1日、宇智郡大阿太村佐名伝・光誉上人の開基とされています。本尊は釈迦如来と伝承されてきましたが、実は左手に薬壺（やっこ）をもつ薬師如来です（高さ50.5cm）。室町時代の制作と考えられ、全体の表現は大陸風（中国・宋様式）の特徴を示しています。この仏は「大陸風のまなざし」で、いつの世も地域の人々を見守ってくれています。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="584 1843 1010 1877">佛眼寺の本尊・木造薬師如来坐像</p>			
⑥ 連絡先	佛眼寺		


① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{いまき} 今木
③ 名称			
<p>かつらぎ おおみね せんとくじ 葛城と大峯をつなぐ 泉徳寺</p>			
④ 説明			
<p>今木地区には、廃絶した「今木寺」の法灯を受け継ぐ、真言宗の泉徳寺があります。現本堂は昭和50年（1975）に整備されたもので、旧本堂（薬師堂）は東側の山中、明暦2年（1656）作の金剛力士像（阿形・吽形）を配する山門を上がったところにありました。泉徳寺は、修験者たちの聖地、葛城山と吉野・大峯をつなぐ参詣道（現・国道309号線）の中継点であり、平安時代後期作の本尊・木造薬師如来坐像（高さ83cm）も、吉野・大峯から移されたとの伝承があります。</p>			
⑤ 写真			
<p>泉徳寺山門の木造金剛力士像・阿形（左） 泉徳寺の本尊・木造薬師如来坐像（右）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
⑥ 連絡先	泉徳寺・大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字大岩 ^{おおいわ}
③ 名称			
<p>ちめい ゆらい おお いわ おおいわ こふんぐん 地名の由来は大きな岩 大岩古墳群</p>			
④ 説明			
<p>大岩地区では、ゴルフ場の開発にともない発掘調査がおこなわれており、6・7世紀の横穴式石室をもつ大岩古墳群の存在が知られています。その石室に使われた巨石は、付近の山中から運ばれたもので、大岩の地名の由来になったと考えられています。これらの古墳群のうち、石神古墳（大岩1号墳）・大岩2号墳は奈良県史跡として現地保存。大岩3号墳（吉野川の板石を組み合わせた石棺）は大岩大日堂のそばに移設され、いつでも見学できるよう地元の皆さんが守り伝えています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">石神古墳の石室（左）と大岩2号墳（右）</p>			
⑥ 連絡先	大岩区・大淀町教育委員会		

① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字持尾
③ 名称			
<p>み あ いしがき うえ こぼく 見上げれば、石垣の上に ウルシの古木</p>			
④ 説明			
<p>持尾集落の入口に、見上げるような高い石垣。旧川本家の屋敷跡です。その石垣の上には、ウルシ（漆）の古木が立っています。高さは約 10m、目通り周囲は約 2.5mです。このようなウルシの古木は町内でも珍しく注目されます。ウルシ（ウルシ科ウルシ属）は落葉樹で、秋になると葉が真っ赤になります。塗り物（漆器）に使う原料の漆を採るために民家で栽培される事も多く、このウルシの木も、明治時代以前に屋敷の庭先に植えられ、地域の歴史をみつめてきたのでしょうか。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p>ウルシの古木（右） 旧川本家の石垣（左）</p> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{しもぶち} 下漕
③ 名称			
<p>まんようか おおよど すずがもり 万葉歌と「大淀」のルーツ 鈴ヶ森</p>			
④ 説明			
<p>下漕地区の西部・鈴ヶ森付近では、吉野川が大きく蛇行し、奇岩の下に淀み（漕）をつくり、ゆったりと流れています。ここは街道をつなぐ渡し場であったと伝え、奈良時代の『万葉集』にも歌われた「大（川）淀」の候補地で、町名「大淀」のルーツとなっています。【今しくは 見めやと念（おもい）し 三芳野の 大川よどを 今日見つるかも 卷7-1103】川淀を見下ろす鈴ヶ森の木陰には、平成5年（1993）11月、万葉学者・犬養孝さん揮毫の万葉歌碑がたてられています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">下漕・鈴ヶ森にたつ「大川淀」の万葉歌碑</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町大字 ^{ひがいもと} 桧垣本
③ 名称			
<p>ものがたり しゅじんこう しの お俊^{しゅん}・伝兵衛^{でんべえ}の石碑^{せきひ}</p>			
④ 説明			
<p>土田交差点の西側に並び建つ桧垣本の釈迦・大師堂の前に「お俊伝兵衛 戯曲実説地」と刻んだ高さ0.8mの石碑があります。お俊・伝兵衛は、京都の心中事件を題材にした戯曲「近頃河原達引（ちかごろかわらのたてひき）」の主人公です。講談師・神田伯海らは、明治43・44年（1911・1912）、土田・桧垣本地区を舞台にした近代戯曲『お俊伝兵衛』を制作。昭和初年頃、吉野川保勝会と桧垣本区は、戯曲の物語の主人公たちを偲んで、ゆかりの地・桧垣本にこの供養碑をたてました。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p style="text-align: center;">お俊・伝兵衛の石碑（左） 同正面（中） 同側面（右）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		


① 分類	自然遺産	② 地域	大淀町大字 ^{つた} 土田
③ 名称			
じょうもん うみ き おく つたはちまんじんじゃ じゅそう 縄文の海の記憶 土田八幡神社の樹叢			
④ 説明			
<p>土田地区の氏神は、住宅地のなかに鎮座する土田八幡神社。寛保元年（1741）の記録「鎮守八幡宮縁起」では桧垣本八幡神社の分神と伝えます。鳥居をくぐって境内を散策するとスギ、ケヤキ、ヤブニッケイ、モミなどの高木が見事な樹叢を形成しています。目をうばわれるのは社殿のそばにたつ高さ約 22m、目通り周囲約 4.3mのタブノキの巨樹です。タブノキは海岸近くに多いクスノキ科の暖地性の木。かつて縄文海進の時、海から吉野川を遡ってきたもののなごりかもしれません。</p>			
⑤ 写真			
			
土田八幡神社の樹叢（左からモミ、タブノキ、ヤブニッケイなど）			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字土田 ^{つた} （南大和 ^{みなみやまと} ）
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> まちづくりの^{げんてん}原点 ^{やま}山の神と^{かみ}平城^{へいじょうじんじゃ}神社 </p>			
④ 説明			
<p>土田地区の南大和ニュータウンは、昭和54年（1979）に街開きがおこなわれました。当時の開発事業主「平城開発」が、その折に新しいまちのシンボルとして、吉野山の吉野神宮から祭神を勧請したのが「平城神社」です。その境内の奥には、この地で古くから祀られていた「山の神」の石碑があり、平城神社の整備にあたり新たな祠が設けられました。古い神と新しい神はこの鎮守の森で、まちづくりの原点として、また、地域住民の心のよりどころとして、ともに鎮座しています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 50%;"> <p>平城神社の鳥居（左上）</p> <p>平城神社本殿から南をみる（左下）</p> <p>平城神社・山の神の祠（右）</p>  </div> </div>			
⑥ 連絡先	南大和区		

① 分類	名所遺産	② 地域	大淀町大字 ^{こしべ} 越部・高取町 ^{たかとり} 高取
③ 名称			
<p>かわぞ ^{こどう} 川沿いの古道をたどって ^{あんさん} ^{たき} 安産の滝</p>			
④ 説明			
<p>古代遺跡が集中する越部川沿いの道は壺阪寺（高取町）へ続く「壺坂古道」の一つ。越部川の最上流部は「安佐谷」とも呼ばれ、延久2年（1070）頃、興福寺の荘園「田口庄（たぐちのしょう）」がありました。ここから北側の林道に入ると、3段に分かれて流れ落ちる「安産（安佐）の滝」が出迎えてくれます。一番大きな滝の落差は6.5m。古くから滝行場として知られる安産祈願の名所です。滝からさらに北へ進むと壺阪峠（標高約400m）。壺阪寺・高取城はもうすぐです。</p>			
⑤ 写真			
<p>壺坂古道と「安産の滝」解説板（左） 安産の滝（右）</p> 			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字比曽
③ 名称			
めいかい 冥界ワンダーランド でぐちじそうどう じごくえす 出口地蔵堂の地獄絵図			
④ 説明			
<p>比曽地区の南端にある出口集落の地蔵堂では、例年8月24日、地蔵盆の法要がおこなわれる際、石造の地蔵菩薩をまつる堂内に、絵解きに用いられる8幅の地獄絵図がかけられます。一幅ごとにさまざまな地獄・冥王が描き分けられており、冥界へと旅立つ死者たちがうける地獄の裁判のようですが、細やかにていねいに表現されています。作者や制作年代は不明ですが、描き方から明治時代の作と推定されます。地蔵堂内で繰り広げられた「冥界ワンダーランド」の記憶を物語る絵図です。</p>			
⑤ 写真			
 <p data-bbox="501 1832 1078 1868">出口地蔵堂に伝わる地獄絵図の一部（閻魔王）</p>			
⑥ 連絡先	出口区・大淀町教育委員会		

① 分類	民俗遺産	② 地域	大淀町大字比曽
③ 名称			
<p style="text-align: center;">いの きざ ねん ろくさいねんぶつこうしゅう せきとう 祈りを刻んで400年 六斎念仏講衆の石塔</p>			
④ 説明			
<p>上比曽地区の共同墓地の入口には、東向きに六斎念仏講衆のつくった石塔3基が並んでいます。六斎念仏は、もともと六斎日（仏教で定められた月6回の斎日）に念仏を唱えていたのが、民間へひろまり、お盆などの祈念行事となったものです。石塔は、いずれも天正9年（1581）に造られた祈念碑で、中央に阿弥陀如来、その下に講衆の名がみられます。中央に「南無阿弥陀仏」の六字を表した石塔（高さ129cm）はとりわけ大型で、その下に23名の講衆の名が刻まれています。</p>			
⑤ 写真			
 <p style="text-align: center;">阿弥陀如来を彫り出した石塔（左・中）と「南無阿弥陀佛」の六字を表した石塔（右）</p>			
⑥ 連絡先	上比曽区・大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町大字中増 <small>なかもし</small>
③ 名称			
<p style="text-align: center;">インパールからの<small>きかん</small>帰還 <small>にっしょうき</small>日章旗</p>			
④ 説明			
<p>中増地区出身の辰巳善次（よしつぐ）は、昭和19年（1944）2月、ビルマ方面（現ミャンマー）に出兵。イギリス軍の拠点攻略するインパール作戦に参加し、同年6月、インパール北方のインド・アッサム州サタルマイナで戦死。戦地に残された彼の所持品（遺留品）には、出征時に彼へと贈られ102名の寄書きで埋め尽くされた日章旗（日の丸の旗）がありました。令和元年（2019）、これを持ち帰ったイギリス兵の子孫の手から、日章旗はふるさとの遺族のもとへ帰還しました。</p>			
⑤ 写真			
<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">寄書きで埋め尽くされた日章旗（現在は大淀町所蔵）</p>			
⑥ 連絡先	中増区・大淀町教育委員会		

① 分類	もの遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p>たびびと おも で こうさてん みちしるべ 旅人たちの思い出をつなぐ 交差点の道標</p>			
④ 説明			
<p>江戸時代に制札（掲示板）がたっていた交差点を「札（ふだ）の辻」といいます。大淀町内を東西に横断する伊勢南街道沿いには、「札の辻」が2か所（下淵・桧垣本）にありました。いずれも南北の街道との交差点で、行き先を刻んだ道標がありました（桧垣本の「札の辻」の道標は覚栄寺境内に移設）。また、下市街道（車坂越え）と伊勢南街道との交差点（下淵地区）には、今も安永4年（1775）の道標が残ります。交差点の道標は旅人たちの様々な思い出を今につないでいます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-left: 20px;"> <p>下淵（西町）にある安永4年（1775）の道標（右） 桧垣本の「札の辻」にあった道標（左）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p style="text-align: center;">よしのいち こめどころ のうそん げんふうけい おおよどは吉野一の米所 農村の原風景</p>			
④ 説明			
<p>江戸時代から明治時代にかけて、吉野地域でもため池の築造や耕地整理が進み、水田耕作（田んぼ）がひろまっていくなか、大淀町は「吉野一の米所」として知られるようになりました。戦後、町内各地で様々な開発事業が進む一方で、人と自然が共生する場としての「田んぼ」も大切にされてきました。今では米作りの農家も少なくなりましたが、黄金色の稲穂がゆれる農村の原風景に心うばわれる人も多いでしょう。次世代に誇れるまちの貴重な財産といえるのではないのでしょうか。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: right;">実った稲穂と田んぼアート（左と右上・中増） 収穫体験のようす（右下・岩壺）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		


① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p>せんせい きょういくしゃ レガシー 先生どうもありがとう！ 教育者たちの記念碑</p>			
④ 説明			
<p>吉野郡内の各村々で、近代的な教育が始まったのは明治時代のこと。各地域の小学校には、多くの生徒を育てあげた先生（教育者）たちがいました。その功績を刻んだ記念碑（顕彰碑・頌徳碑・紀恩碑）は、大淀町内でも中増・北六田・土田・矢走・佐名伝地区などにのこされています。とりわけ、矢走尋常小学校の訓導兼校長だった竹山清文（1867-1948）は、『大淀村風俗誌』（1918年）を世に送り出すなど、大淀村の歴史をまとめたレジェンド（偉人）としても知られています。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">町内各地にのこる教育者たちの記念碑</p> <p>左・高木鷹山頌徳碑（中増）、中・岸田樞造頌徳碑（北六田）、右・竹山清文紀恩碑（矢走）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p>か ふうけい よしのぐんざん 変わらない風景のなかに 吉野群山</p>			
④ 説明			
<p>古代からの聖地として知られる吉野群山は、昭和11年（1936）2月に「吉野・熊野国立公園」として、近畿ではじめての国立公園に指定されました。また、平成14年（2004）7月には、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にも登録され、後世に残すべき紀伊半島の遺産として、多くの人々に知られています。大淀町内各地からはパノラマで、南方につらなる秀麗な吉野群山を眺めることができます。この風景は、いつまでも変わらない大淀町の魅力的な景観といえるでしょう。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">下淀・香梨台（こうりだい）からみた吉野群山</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	景観遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p style="text-align: center;">しきおりおり いろど よしのがわ 四季折々の彩り 吉野川</p>			
④ 説明			
<p>大淀町の南側を滔々（とうとう）と流れる吉野川（紀の川）。川にかかる橋の上からは、上流の名峯・高見山からのぼる朝日と、下流に沈んでいく真紅の夕日を見ることができます。秋の到来を告げるのは、河川敷に群落をつくり、銀色の穂を風になびかせるオギ（イネ科ススキ属）です。早春には、ネコヤナギ（ヤナギ科ヤナギ属）の愛らしい花穂が川辺におどります。四季折々の彩りをもつ吉野川の風景は、いつまでも飽きることのない、大淀町にとってかけがえのない景観遺産です。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>春・佐名伝の川原に芽吹くネコヤナギ（左上）</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>夏・越部の椿橋から上流を望む（右上）</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>秋・増口の川原にひろがるオギ（左下）</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>冬・柳の渡しからみた夕景（右下）</p> </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p style="text-align: center;"> <small>おおよどちょうし</small> 『大淀町史』をつくる </p> <p style="text-align: center;"> <small>ちょうしへんさん きろく</small> 町史編纂の記録 </p>			
④ 説明			
<p>大淀町ができて50周年を迎えた昭和45年（1970）の秋、町ではじめての「自治体史（じちたいし）」をつくるため、町史編纂事業が本格的にスタートしました。そして、大勢の関係者の努力がみのり、昭和48年（1973）年2月に刊行されたのが『大淀町史』です。この自治体史の編纂にとともに、町内各地のようすが、文書、写真、映像によって克明に記録されました。今では、1970年代のまちの風景、人々の暮らしぶりがうかがえる、たいへん貴重な記録となっています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p style="text-align: center;">町制施行50周年記念行事・花車パレードの記録写真（下湊・下市口駅前商店街）</p>			
⑥ 連絡先	大淀町総務課・大淀町教育委員会		

① 分類	わざ遺産	② 地域	大淀町内各地
③ 名称			
<p>オールスターが大集合 <small>だいしゅうごう</small> みんなで大淀おどり <small>おおよど</small></p>			
④ 説明			
<p>昭和 41 年（1966）、大淀町の町制施行 45 周年にあわせて「大淀おどり」という歌が作られました（徳山泰盛さん作詞・作曲、石平三郎さん編曲）。その歌詞のなかには、むつだの淀（北六田）、筆捨岩と弘法大師（佐名伝）、千石橋（下渚）、下渚遺跡（下渚・桜ヶ丘）、芦原トンネル、お茶と梨、紀州陣屋（越部）など、まちを代表するオールスターがちりばめられています。音頭にあわせて踊るふるさと・おおよどの定番曲として、「大淀おどり」は今も多くの人々に歌い継がれています。</p>			
⑤ 写真			
			
<p>町制施行 50 周年記念行事（大淀緑ヶ丘小学校校庭）で披露された「大淀おどり」のようす</p>			
⑥ 連絡先	大淀町教育委員会		

① 分類	近現代遺産	② 地域	大淀町
③ 名称			
<p>おおよどのシンボルマーク <small>おおよどちょうしょう</small> 大淀町章</p>			
④ 説明			
<p>昭和37年（1962）、長年の計画だった大淀町章が定められました（初代の町章）。その後、昭和41年（1966）の町制施行45周年にあわせて、現在の町章（2代目）が定められています。その全形は、環（わ）をイメージした漢字の「大」と、吉野川の水滴を図案化したものですが、天地をひっくり返してみると…「OYODO」のアルファベット「O」「Y」がアレンジされていることもわかります。50数年前にできたまちのシンボルマークから、いろいろな想いがよみとれます。</p>			
⑤ 写真			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 大淀町章（1966年制定） </div> </div>			
⑥ 連絡先	大淀町・大淀町教育委員会		

附 編

おおよど遺産 100 リスト

(選定順)

おおよど遺産100リスト

No.	名 称	分 類	地 域	選定年月日	備 考
1	オカリヤをたてる 御霊神社の秋祭	民俗遺産	佐名伝	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
2	潮の香りと弥生人の記憶 佐名伝銅鐸	もの遺産	佐名伝	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
3	梨の花香る里山 大阿太高原	景観遺産	佐名伝・薬水	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
4	大正浪漫のタイムトンネル 薬水門	近現代遺産	薬水	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
5	薬水の由来 弘法井戸	名所遺産	薬水	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
6	おおみそかの送り火 牛と馬のトンド	民俗遺産	今木	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
7	天まであがれ 大岩のトンド	民俗遺産	大岩	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
8	アメタンモレの伝承 大日如来と大岩神社の神像	もの遺産	大岩	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
9	蓮のつぼみを抱えた大日如来	もの遺産	岩壺	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
10	ワッタイヨーで強くなれ 子ども相撲	民俗遺産	岩壺	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
11	村の庄屋の物語 迎居家の文化遺産	もの遺産	持尾	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
12	お正月の風物詩 カンジョウカケ	民俗遺産	畑屋	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
13	忠臣小金吾 伝説をものがたる石塔	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
14	能楽お囃子のふるさと 桧垣本八幡神社	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
15	張子の仏に願いを込めて 桧垣本釈迦堂	名所遺産	桧垣本	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
16	安佐寺ゆかりの仏たち 馬佐薬師堂	名所遺産	馬佐	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
17	吉野最大級 北六田の木造倉庫群	近現代遺産	北六田	2017年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
18	ふるさとを見守る ムクノキの巨樹	自然遺産	比曾	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
19	子どもに恵まれますように 上比曾のいのこ	民俗遺産	比曾	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
20	椿井の杜の鎮守さま 水分神社	名所遺産	増口	2017年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
21	ほとけの心とやさしい言葉 花岡大学の童話作品	もの遺産	佐名伝	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
22	氏神さんに祈る日々 戦勝祈願の絵馬	近現代遺産	薬水	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
23	こもればはふるさとの灯 車坂古道	名所遺産	今木・下淵	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
24	近代化を支えた和漢薬 大岩の薬業遺産	近現代遺産	大岩	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
25	古風な宮座の神事 天髪王神社のトヤワタシ	民俗遺産	矢走	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
26	オンリーワン!の狛犬 天髪神社	名所遺産	持尾	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
27	鐘の音色は姫の声 正覚寺の梵鐘	もの遺産	芦原	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
28	500年続く龍神さまの記憶 畑屋の湯釜	もの遺産	畑屋	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
29	うったきさんへ牛つれて 牛滝まつり	民俗遺産	馬佐	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
30	みこしに乗って夏祭り 水神祭	民俗遺産	下淵	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
31	弥生人が入っています 常門遺跡の壺	もの遺産	越部	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
32	のぞいてびっくり 檜ヶ峯の古墳群	名所遺産	新野	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
33	北六田創村物語 毘沙門講の古文書	もの遺産	北六田	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
34	吉野の原風景がみえる 岸田日出男の遺したもの	近現代遺産	北六田	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
35	伊勢と和歌山をつなぐ道 伊勢南街道のまちなみ	景観遺産	増口	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
36	あの山のむこうに伊勢がある 高見地蔵	名所遺産	西増	2018年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
37	お伊勢さんのおかげです おかげ灯籠	民俗遺産	中増	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
38	目で見る阿弥陀さんの世界 観経曼荼羅	もの遺産	中増	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
39	受け継がれる伝統の技と志 茶の里・増	わざ・景観遺産	中増・増口	2018年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
40	弘法大師も筆を投げたり 筆捨岩	自然遺産	佐名伝	2019年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
41	蔵王権現を守り伝える 今木権現堂と安養寺	名所遺産	今木・中増	2019年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
42	建皇子の物語 保久良古墳と女帝の歌碑	名所遺産	今木	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
43	洞川から吉野口へ 大峯索道の遺産	近現代遺産	今木・大岩	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
44	愛宕山から矢がはしる 矢走城跡	名所遺産	矢走	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
45	後世に伝えたい 安政の大地震の記録	もの遺産	矢走	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
46	壺阪寺へ続く道 「つぼさか道」の道標	名所遺産	畑屋・北六田	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
47	美しすぎる観音さん 観音寺	名所遺産	桧垣本	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
48	さくらが丘の風ひかる 巨樹と桜の並木道	景観遺産	下淵	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
49	「一の行場」の大五輪塔 石塚遺跡	名所遺産	下淵	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
50	蓮如、吉野で人生を詠う 光明寺	名所遺産	下淵	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分

おおよど遺産100リスト

No.	名 称	分 類	地 域	選定年月日	備 考
51	時代をこえて 下市口の風景	近現代遺産	下 澁	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
52	舟から橋へ 三つの渡しと近代橋	景観遺産	下澁・越部・北六田	2019年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
53	吉野の水よ清らかに ケヤキと水取り神事	自然・民俗遺産	土田	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
54	梨木仏と「岡堂」の伝承 越部古墳	名所遺産	越部	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
55	太子信仰の遺産 世尊寺太子堂とおたっさん	名所・民俗遺産	比曾	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
56	蘭学のDNA 前田家文書	もの遺産	西増	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
57	アイデア野菜でツクリモノ 西増・増口の地蔵盆	民俗遺産	西増・増口	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
58	あかい石が支えた地域産業 比曾石	もの遺産	大淀町内各地	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
59	ふるさとの智恵と味 柿の葉ずしを作ろう	わざ遺産	大淀町内各地	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
60	語り継がれる秘話 龍門騒動の記憶	もの遺産	大淀町内各地	2019年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
61	吉野の水を国中へ 吉野川分水	近現代遺産	今木・下澁	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
62	ススキ提灯で心一つに 甲神社の秋祭り	民俗遺産	今木	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
63	心にのこそう 山村の原風景	景観遺産	鉦立・持尾	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
64	水の神、時々、幸福の女神 弁天さん	名所遺産	岩壺・馬佐	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
65	のこされた街道の記憶 芦原峠	名所遺産	芦原	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
66	のこされた戦争の記憶 忠魂碑	近現代遺産	下澁	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
67	下市口にて 安西冬衛の詩碑	もの遺産	下澁	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
68	農を支えた水利システム 桧垣本村の古絵図	もの遺産	桧垣本	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
69	ここで旗を振った 桧垣本のオシ塚	民俗遺産	桧垣本	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
70	プレイバック昭和 福田惇の記録映像	近現代遺産	土田	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
71	この一本がのこった カヤの巨樹	自然遺産	畑屋	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
72	奥越部に忌部の里 太玉神社	名所遺産	越部	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
73	世々に時を告げながら 長胴太鼓	もの遺産	新野	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
74	吉野の近代化を下支え 活版印刷の道具	もの遺産	新野	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
75	日本古来の伝統的な技 金箔貼り・金箔振り	わざ遺産	新野	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
76	氏神さんはお産の女神 新野八幡神社	名所遺産	新野	2020年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
77	花と緑に包まれて 世尊寺の花木	自然遺産	比曾	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
78	縁起絵巻は物語る 放光仏	もの遺産	比曾	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
79	大淀町の名付け親 大北作治郎の遺産	近現代遺産	増口	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
80	線路は続くよいつまでも 吉野鉄道の遺産	近現代遺産	大淀町内各地	2020年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
81	大陸風のまなざしで 佛眼寺	名所遺産	佐名伝	2021年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
82	葛城と大峯をつなぐ 泉徳寺	名所遺産	今木	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
83	地名の由来は大きな岩 大岩古墳群	名所遺産	大岩	2021年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
84	見上げれば、石垣の上に ウルシの古木	自然遺産	持尾	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
85	万葉歌と「大淀」のルーツ 鈴ヶ森	名所遺産	下澁	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
86	物語の主人公を偲んで お俊・伝兵衛の石碑	もの遺産	桧垣本	2021年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
87	縄文の海の記憶 土田八幡神社の樹叢	自然遺産	土田	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
88	まちづくりの原点 山の神と平城神社	名所遺産	土田（南大和）	2021年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
89	川沿いの古道をたどって 安産の滝	名所遺産	越部	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
90	冥界ワンダーランド 出口地藏堂の地獄絵図	民俗遺産	比曾	2021年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
91	祈りを刻んで400年 六斎念仏講衆の石塔	民俗遺産	比曾	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
92	インパルからの帰還 日章旗	近現代遺産	中増	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
93	旅人たちの思い出をつなぐ 交差点の道標	もの遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町各区・自治会推薦分
94	おおよどは吉野一の米所 農村の原風景	景観遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
95	先生どうもありがとう！ 教育者たちの記念碑	近現代遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
96	変わらない風景のなかに 吉野群山	景観遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
97	四季折々の彩り 吉野川	景観遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
98	『大淀町史』をつくる 町史編纂の記録	近現代遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
99	オールスターが大集合 みんなで大淀おどり	わざ遺産	大淀町内各地	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分
100	おおよどのシンボルマーク 大淀町章	近現代遺産	大淀町	2021年3月31日	大淀町地域遺産会議推薦分

附 編

大淀町地域遺産保存活用制度実施要綱

大淀町地域遺産会議設置要綱

おおよど遺産の選定基準

おおよど遺産 選定の流れ

大淀町地域遺産保存活用制度実施要綱

(総則)

第1条 この要綱は、大淀町内各地域（区・大字）固有の歴史と文化等を知るうえでかかせないもの、町内各地域の活性化に寄与するもの、あるいは地域の人々が心のよりどころにしている地域に根ざしたふるさとの有形・無形の文化財等（以下「地域遺産」という。）について、地域住民と行政が協働で掘り起しをおこない、その保存と継承を持続させ、大淀町のまちづくりに活用することを目的とする制度「大淀町地域遺産保存活用制度（以下「本制度」という。）」の実施にあたり、その方針を定めるものである。

(趣旨)

第2条 本制度は、従来の条例等にもとづく文化財保護制度（指定文化財）を包括しながら、行政と住民が協働で、地域遺産に幅広く光をあてて、その地域文化の魅力の見直しと地域の活性化、持続可能なまちづくりに寄与することを目指すものである。

(組織)

第3条 大淀町（以下「町」という。）は、本制度を実施するため、町のプロジェクトチームとして「大淀町地域遺産会議」（以下「会議」という。）を設置しその事業を遂行する。会議の詳細については別紙に定める。

(役割)

第4条 会議は、地域遺産を調査・記録保存するとともに、会議でとりわけ重要と判断された地域遺産を「大淀町選定地域遺産（おおよど遺産）」として選定し、その保存・活用に関して適切な助言等をおこなう。選定基準については別紙に定める。

(期間)

第5条 本制度の実施期間は、平成28年10月7日から令和5年3月31日までとする。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は別に定める。

附則（平成28年6月15日）

この要綱は、平成28年6月15日から施行する。

附則（平成29年10月1日）

この要綱は、平成29年10月1日から施行する。

附則（平成30年10月1日）

この要綱は、平成30年10月1日から施行する。

附則（令和元年10月1日）

この要綱は、令和元年10月1日から施行する。

附則（令和3年6月30日）

この要綱は、令和3年6月30日から施行する。

大淀町地域遺産会議設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は行政と地域住民の協働でふるさとに残る「地域遺産」を見直し、ふるさとへの愛着をより深めながらその保存と継承を持続させ、かつ「地域遺産」を将来の大淀町のまちづくりと地域活性化に活用するための組織としての「大淀町地域遺産会議（以下「会議」という。）」を設置するにあたり、その運営を円滑に進めるために必要な規定を定めるものである。

(構成)

第2条 会議は大淀町長、大淀町副町長、大淀町教育委員会教育長および大淀町が委嘱する18名以内の運営委員により構成する。運営委員は町内各地区から15名以内を選出する。

2 会議には委員長及び副委員長をおく。委員長は委員の互選によって決定し会務を統括する。副委員長は委員のうち委員長からの指名によって決定し委員長を補佐する。また委員長に事故あるときまたは不在のときはその職務を代理する。

3 運営委員のうち委員長・副委員長を含む6名を常任とする。常任運営委員は年数回の会合で会議の運営について意見を述べるとともに、軽微な案件について処理する。

4 必要に応じ、運営委員のうち常任でないものから会計監査1名を互選により選出する。

5 会議には、オブザーバーとして大淀町文化財保護審議会委員が数名参加する。

6 会議にはサポーターをおくことができる。サポーターは研究機関・学校・一般住民及び町内の小・中学生から委員長が選任する。その任期は会議の設置期間内とする。

(事務局)

第3条 会議の設置にあたり、大淀町は町職員数名からなる事務局を町役場内に設置する。

2 事務局は会議にかかわる諸事務を処理し、会議の会計を処理する。

3 事務局長は事務局から1名を互選により選任し、会議にかかわる諸事務を統括する。

(総会および会合)

第4条 会議は、年1回の総会および年数回の会合と必要な諸活動をおこなう。総会および会合は、委員長が委員を招集するものとし、議長は委員長がその任にあたる。

(事業)

第5条 会議は町行政からの要請をうけ、大淀町内に伝わる地域固有の文化・文化財にかかる主体的、総合的な取組みを調査、記録保存し、かつ文化・文化財を活かしたまちづくりやその継承と地域活性化に資する事業への提言をおこない、「地域遺産」の保存と活用に寄与する。

2 会議は上記のうち、町内各地域（区・大字）の歴史や文化を知るうえで重要なもの、地域の活性化に寄与するもの、あるいは地域の人々が心のよりどころとしているものについて、選定基準に基づき審査をおこなったうえで「おおよど遺産」として選定し「おおよど遺産リスト」に登録する。「おおよど遺産」の選定基準については別に定める。

3 会議は選定した「おおよど遺産」の保存・活用について適切な助言をおこない町行政は会議の要請に基づき予算の範囲内において助成をおこなう。助成事業の詳細については別に定める。

(期間および任期)

第6条 会議の設置期間および委員の任期は、平成28年12月1日から令和5年3月31日までとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は別に定める。

附則(平成28年6月15日)

この要綱は、平成28年6月15日から施行する。

附則(平成29年10月1日)

この要綱は、平成29年10月1日から施行する。

附則(平成30年10月1日)

この要綱は、平成30年10月1日から施行する。

附則(令和元年10月1日)

この要綱は、令和元年10月1日から施行する。

附則(令和3年6月30日)

この要綱は、令和3年6月30日から施行する。

おおよど遺産の選定基準

平成 28 年 6 月 15 日策定

「おおよど〈もの〉遺産」

建造物・絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・文書・記録媒体その他の有形の文化的所産で、町内各地域にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの（これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む）並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。ただし、かたちをなしてから 100 年以上を経過していることが前提。

「おおよど〈わざ〉遺産」

演劇・音楽・工芸技術その他（保存技術等）の無形の文化的所産で、町内各地域にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。ただし、50 年以上の経験を有していることが前提。

「おおよど〈民俗〉遺産」

衣食住・生業・信仰・年中行事等に関する風俗慣習および伝承等、民俗芸能・民俗技術及びこれらに用いられる衣服・器具・家屋その他の物件で町内各地域住民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。ただし、かたちをなしてから 50 年以上を経過していることが前提。

「おおよど〈名所〉遺産」

町内各地域にとって歴史上又は学術上価値の高い遺跡・庭園・橋梁・伝承地、峡山岳その他の名勝地で町内各地域にとって芸術上又は鑑賞上価値の高いもの。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。ただし、かたちをなしてから 50 年以上を経過していることが前提。

「おおよど〈自然〉遺産」

動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む）・植物（自生地を含む）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む）で町内各地域にとって学術上価値の高いもの。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。

「おおよど〈近現代〉遺産」

明治時代から昭和 30 年代頃までの建造物・資料のうち、町の歴史的景観に寄与しているもの。造形の規範となっているものや再現することが容易でないもの。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。

「おおよど〈景観〉遺産」

町内各地域における人々の生活・生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、町内各地域の住民の生活・生業の理解のため欠くことのできない場所。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。

「おおよど〈ひと〉遺産」

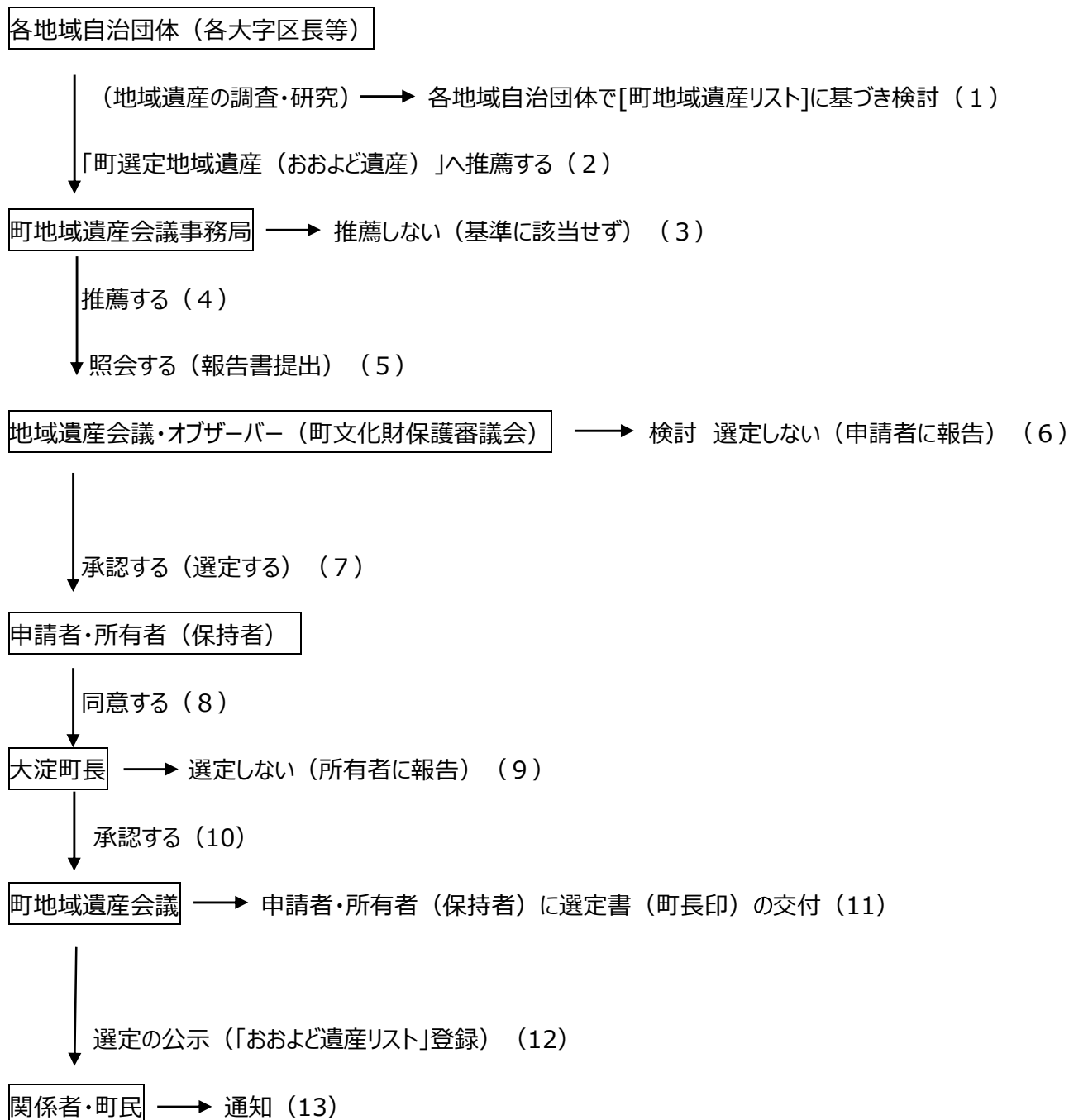
戦争や災害、近代化・高度経済成長といった特異な社会的背景をもとにした町内各地域の住民の記憶のうち地域の成り立ちを理解するため欠くことのできないものを有している人（ただし生存者に限る）。

基準 これらの遺産は、すべて審査する。

※対象の所在する地域との関係性、および地域住民にとって価値があるかどうかを十分に考慮する。

おおよど遺産 選定の流れ

平成 28 年 6 月 15 日策定



※町民への「リスト」への登録通知 (13) は、広報紙・町役場ホームページ・パンフレット等を通じておこないます。

※地域遺産会議の開催 (6・7・11・12) は年度内2回程度を予定しています。

おおよど遺産

—2016～2020 年度大淀町地域遺産保存活用事業—

編集 奈良県大淀町教育委員会

(〒638 - 0812 奈良県吉野郡大淀町桧垣本 2090 番地)

印刷 岡本印刷所

(〒639 - 3126 奈良県吉野郡大淀町新野 342 番地 2)

発行 令和 4 年 (2022) 年 3 月 31 日